



ANNUAL REPORT2020

浜松医科大学医学部附属病院
医療福祉支援センター
令和2年度 報告書

昨年度は新型コロナウイルス感染症に振り回された1年でしたが、今の状況を考えると、われわれ医療関係者が今回のことを落ち着いて語ることができるのはもう少し先のこととなりそうです。そもそも医療従事者は、患者さんやご家族の方々、そして同業者に対しても、「密」になることがサービスの向上につながるものと思ってきました。具体的には、患者さん・ご家族等のプライバシーに配慮して個室などの「密閉」空間にて診療・ケア・相談対応等を行い、顔を突き合わせた「密接」な対応環境のもと、コミュニケーションを深めていくことが患者サービスの向上につながるものと信じています。また、仲間内でも、施設内あるいは地域において関係者が一堂に集まり、「密集」した環境のもと意見交換等を行うカンファレンスや研修会などの場を好んでいます。言いかえれば、われわれ医療従事者は「3密」が大好きだということです。

ところが、2020年初頭から「3密」を避けろと周りから言われ、医療現場はいまだに混乱を極めています。実際、多くの病院では来院時の体温測定等が一般化され、診察現場や相談室等では、扉の開放や十分な換気への配慮が当然のように行われています。また、テーブルの上にはアクリル板のパーテーションが設置されるといった対応も日常化しています。さらに、多くの病院では一定程度の面会制限がいまだ行われています。それら職場環境の変化はわれわれ医療福祉支援センターのスタッフにも大きな影響を与えていますが、日常業務である各種相談対応ではさまざまな工夫を図り、患者満足度が極端に低下しないように努めているのが現実です。

私自身は「3密を避けろ」と言われた際に、その代替に「3Tele」への展開促進を思いつき行動に移しました。簡単に言えば、各種情報通信機器を用いた診療・相談・ミーティング対応（Tele-Consultation）と、患者および利用者の生体モニタリング（Tele-Monitoring）、そして授業や研修会等の遠隔教育（Tele-Education）への移行ですが、当院を含め、これまでアナログ対応を前提としてきた医療機関では、ハード面での整備のみならず職員の行動変容が容易でないことを痛感しました。とはいえ、あれから1年が経過し、今では、在宅移行に向けた退院支援カンファレンスをかかりつけ医や訪問看護ステーションとTV会議システムで行うことや、地域の医療関係者向けの研修会等をオンラインで実施することが一般化しつつあります。

私自身、当院の医療福祉支援センターとの関わりがずいぶん長くなりましたが、大学病院であるが故の責任と使命を常々強く感じています。公的機関ということで確かにフットワークが悪い一面はありますが、どこの施設よりも優秀な医療従事者を抱えている医療機関であると自負しています。個人的には、当センターとのおつきあいの時間は残りわずかとなってきましたが、最後のご奉公として、院内の関係者向けに斬新な助言やメッセージ等は残しておきたいと思っています。

今回も、当センタースタッフの昨年度の診療実績等が整理できましたので、ここにまとめて報告させていただきます。関係者の皆さまに何かお役に立つ情報提供ができれば幸いです。

Index

目次

- 01. はじめに
- 02. 地域連携室
- 03. 医療・福祉相談部門
 - ¹ 医療福祉の相談
 - ² 入退院支援
- 04. がん相談支援センター
- 05. 難病医療相談支援センター
- 06. 肝疾患連携相談室
- 07. 研修並びに会議等の実績
- 08. 各部門ならびに業務別の令和3年度目標





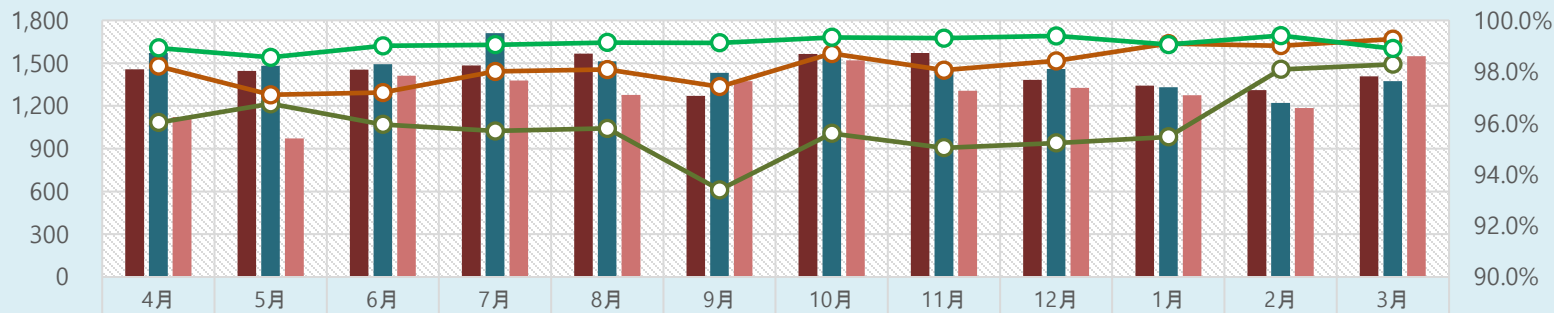
02 地域連携室

地域連携室

①初診紹介患者数と地域連携室での受付患者数

令和2年度の初診紹介患者数は年間総数15,697人で、令和元年度年間総数17,587人から1,890人の減少となった。
紹介患者のうち地域連携室での事前受付患者は年間総数15,558人と令和元年度の17,269人から1,711人減少した。
地域連携室での事前受付比率は99.1%となり令和元年度の98.2%から、0.9%増となっている。

地域連携室での紹介患者総数と受付割合



H30年度総数	1,457	1,447	1,456	1,484	1,567	1,271	1,566	1,571	1,382	1,343	1,311	1,407
R1年度総数	1,571	1,482	1,494	1,712	1,514	1,433	1,552	1,443	1,459	1,331	1,221	1,375
R2年度総数	1,122	971	1,413	1,378	1,277	1,375	1,519	1,306	1,326	1,276	1,185	1,549
H30年度連携室受付%	96.0%	96.8%	95.9%	95.7%	95.8%	93.4%	95.6%	95.0%	95.2%	95.5%	98.1%	98.3%
R1年度連携室受付%	98.2%	97.1%	97.2%	98.0%	98.1%	97.4%	98.7%	98.1%	98.4%	99.1%	99.0%	99.3%
R2年度連携室受付%	98.9%	98.6%	99.0%	99.1%	99.1%	99.1%	99.3%	99.3%	99.4%	99.1%	99.4%	98.9%

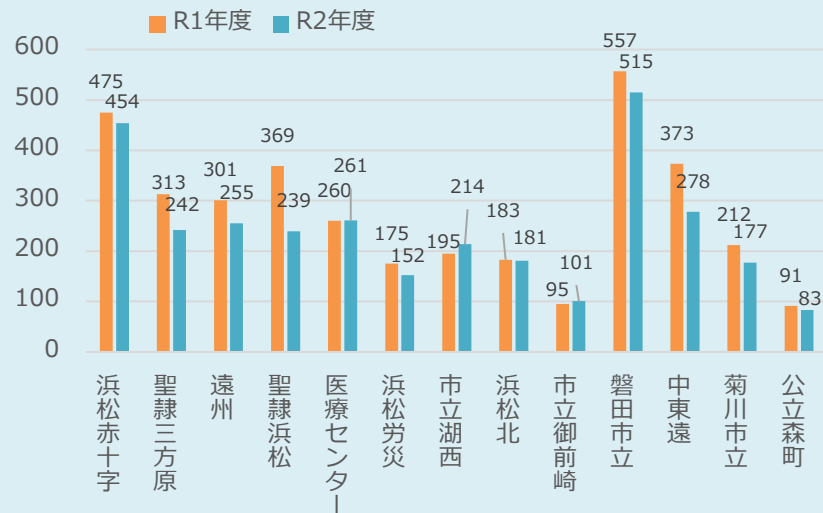
地域連携室

②病院からの紹介患者数の推移

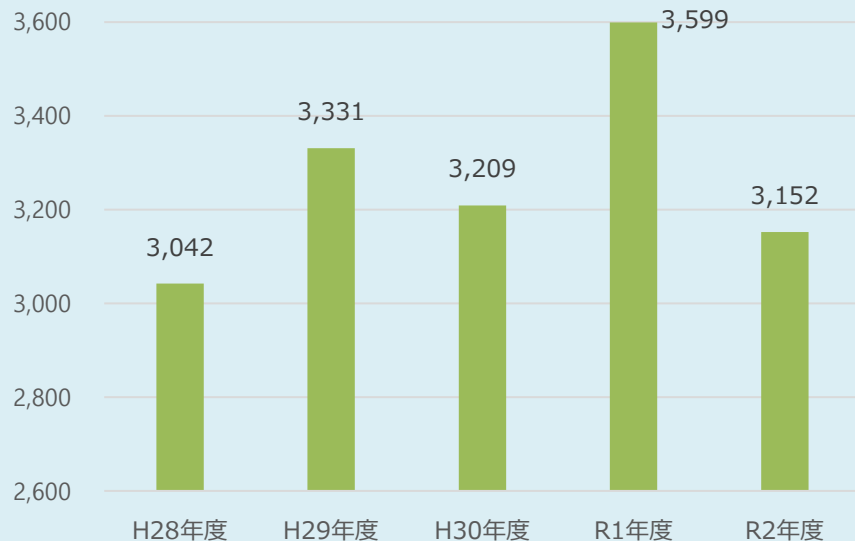
令和2年度に近隣病院から紹介された患者総数は3,152人で令和元年度から447人減少した。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う医療機関への受診患者数減少が要因と考えられる。

当院への医療機関別紹介件数（人）



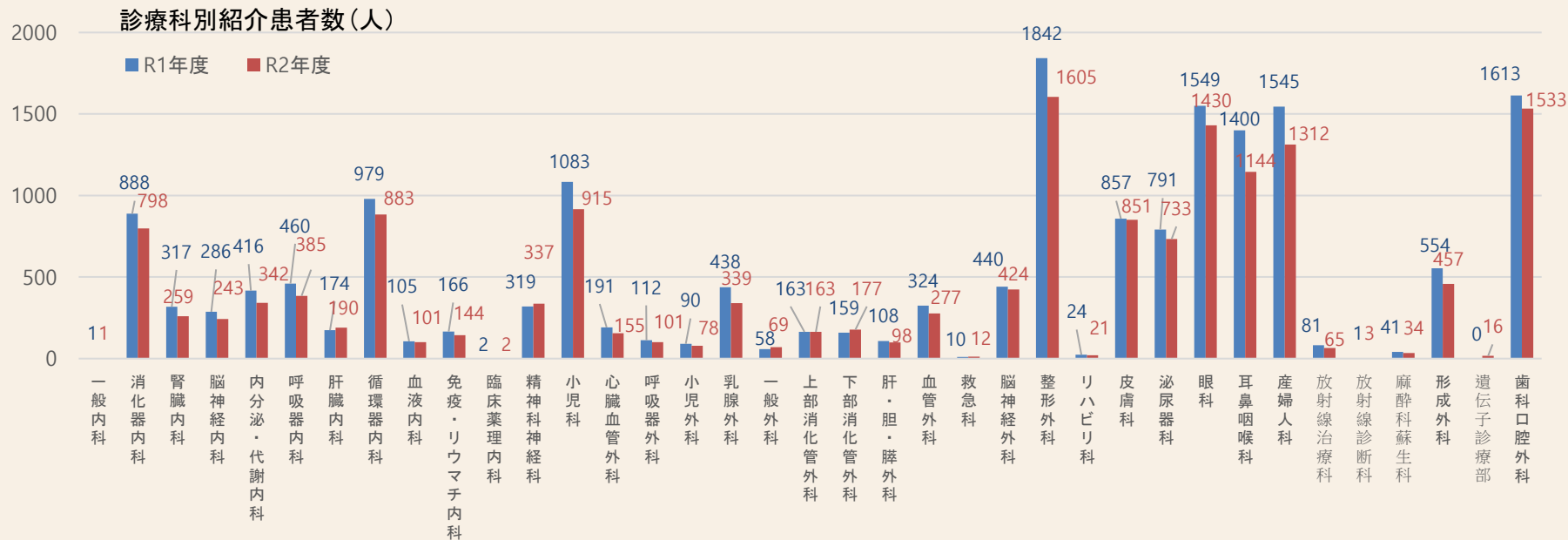
近隣病院からの紹介患者の推移（人）



地域連携室

③診療科別紹介患者数の推移

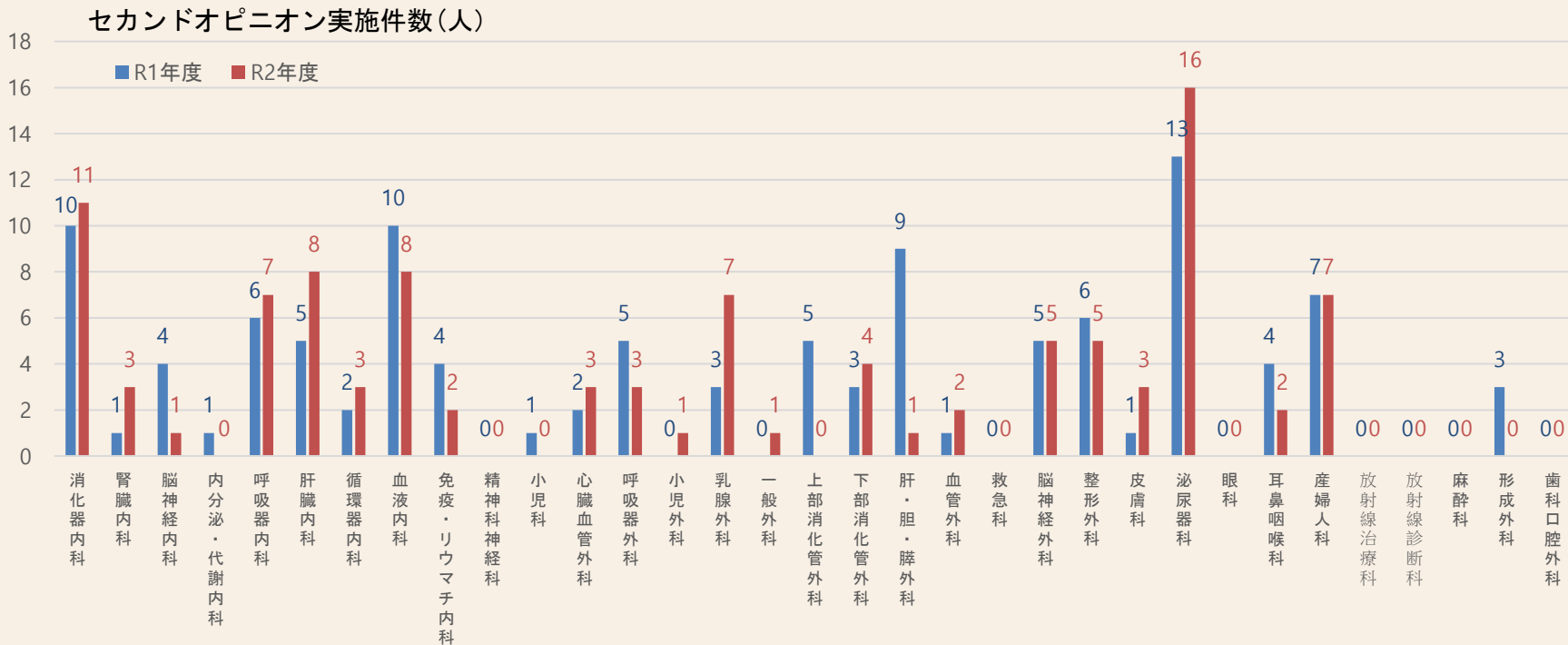
令和2年度において紹介患者数が多い（年間1,000人以上の）診療科は、小児科・整形外科・眼科・耳鼻咽喉科・産科婦人科・歯科口腔外科であった。なお、令和元年度と比べ患者数増加があった診療科としては、肝臓内科・精神科神経科・一般外科・下部消化管外科・救急科・遺伝子診療部であった。



地域連携室

④セカンドオピニオンの実績件数

令和2年度のセカンドオピニオン外来の患者総数は103件で、令和元年度の111件から8件減少した。



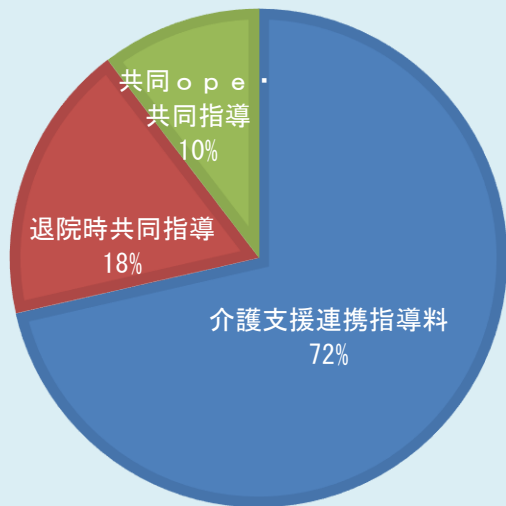
地域連携室

⑤開放型病院共同診療・退院時共同指導・介護支援連携指導等による来院実績

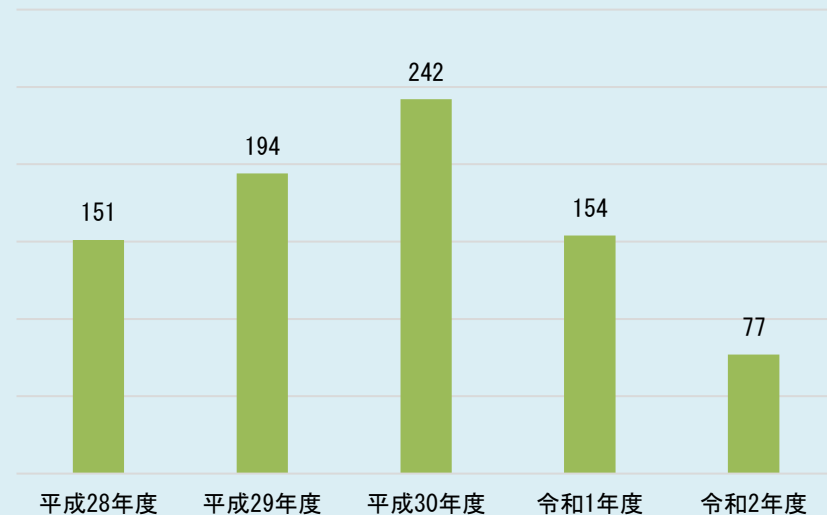
開放型病院共同診療は、令和2年度8件であり、令和元年度から23件減少した。

また、退院時共同指導料・介護支援連携指導料の令和2年度の件数は77件であり、平成元年度から77件の減少となった。

R2年度



来院実績





03 医療福祉相談部門

¹医療福祉相談

1医療福祉相談

①相談支援件数の推移

年度初めから新型コロナウイルス感染症の影響があり、入院外来ともに患者数の減少に加え、面会、面談等、対面での対応がなかなか行えないなど、今まで通りに業務を行えない一年だった。新規で相談を受けた患者数は前年度比90%の2,484件（表1）と、過去5年間で最も少ない患者数となった。先にも記述した患者数の減少が大きな要因になったと思われる。相談内容は、例年通り転院支援や在宅支援を中心に対応し、次いで制度の紹介や医療費の相談といったことの件数が増えている（表2）。今年度は、新たな取り組みとして、オンラインでの退院支援カンファレンスを取り入れた。開業医や訪問看護とWEB上で情報共有し、退院に繋げることができた。

表1 年度別新規相談件数（件）

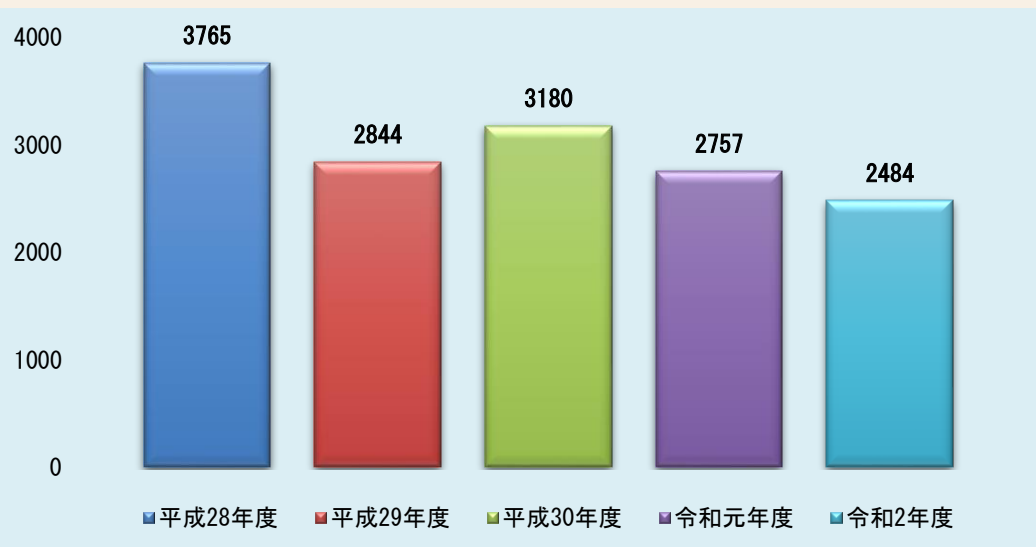


表2 年間相談内容TOP10（件）

1位	転院支援	744
2位	制度の紹介	447
3位	在宅支援	293
4位	医療費の相談	212
5位	在宅ケア調整	70
6位	介護サービス事業所と連携	64
7位	ハイリスク妊婦支援	52
8位	当院への受診	50
9位	介護困難	35
10位	養育困難	28

1医療福祉相談

対応した回数は、前年度比107%の9,684回（表3）となり、1件当たりの相談回数が増加していることが分かる。これは、一人暮らしの方や身寄りがいない方、また親族がいても協力が得られない方などの相談が増加しており、退院支援に難渋するケースが増えていることが要因に挙げられる。診療科別の依頼件数（表4）では、例年通り整形外科、脳神経外科、脳神経内科、消化器内科などが多くなっている。主な支援内容は、整形外科で術後のリハビリテーション目的の転院や、脳神経外科、脳神経内科は脳卒中地域連携パスを使つての転院調整だった。身寄りや協力者がいない高齢の方が、今後ますます増えることが予測される。地域や行政に働きかけ、有効な対応策を作っていきたい。

表3 年度別 対応回数（回）

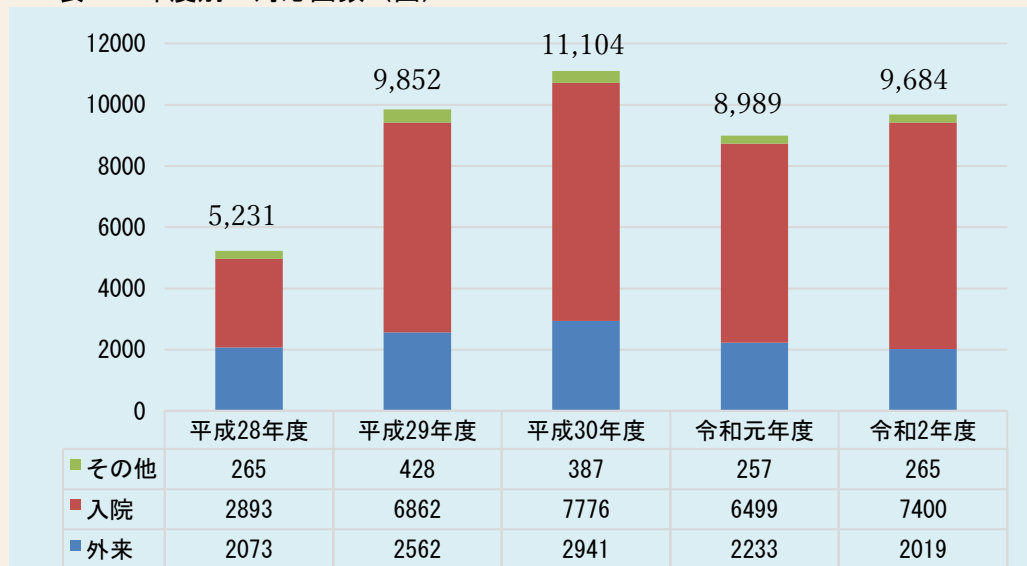


表4 診療科別相談回数（回）

1位	整形外科	1,068
2位	脳神経外科	1,013
3位	脳神経内科	820
4位	消化器内科	667
5位	呼吸器内科	588
6位	小児科	582
7位	産科婦人科	554
8位	循環器科	461
9位	泌尿器科	448
10位	耳鼻咽喉科	410

1医療福祉相談

②障害年金相談会

社会保険労務士が当院にきて相談に対応する、障害年金相談会を年4回開催し、22名の参加があった。毎年開催している会のため院内での認知度が少しずつ上がり、外来や病棟の看護師から連絡があり対応するケースもあった。
専門家と協力して行う貴重な会であり、有効な情報提供ができるため、来年度以降も継続していきたいと思う。

令和2年4月10日	3名
令和2年7月10日	6名
令和2年10月9日	8名
令和3年1月8日	5名

③IBD患者会フローラ

当院は2007年度より難病医療拠点病院として静岡県から指定を受けていることから、指定難病の中で最も登録者の多いIBD＝炎症性腸疾患＝クローン病、潰瘍性大腸炎、を抱える患者の会を2017年から開催している。若年者の発症率が高いため、治療による休学、休職、失業など、生きがいやアイデンティティの喪失は、深刻な問題として支援が必要なケースも多い。正しい知識を学び、患者同士の交流会を行うことで、問題の一助になるよう活動している。
今年度は、オンラインを活用し、ウェビナー形式で開催した。講師は、浜松医科大学医学部附属病院、消化器内科診療課長の杉本健先生に依頼し、新型コロナウイルス感染症とIBDについて講演をいただいた。
参加者は、22ライン（接続数）。重症化や死亡率などが計算されるサイトの紹介や、ワクチン接種について解説があり、非常に興味深い内容となった。



マスコット
フローラちゃん♡



03 医療福祉相談部門

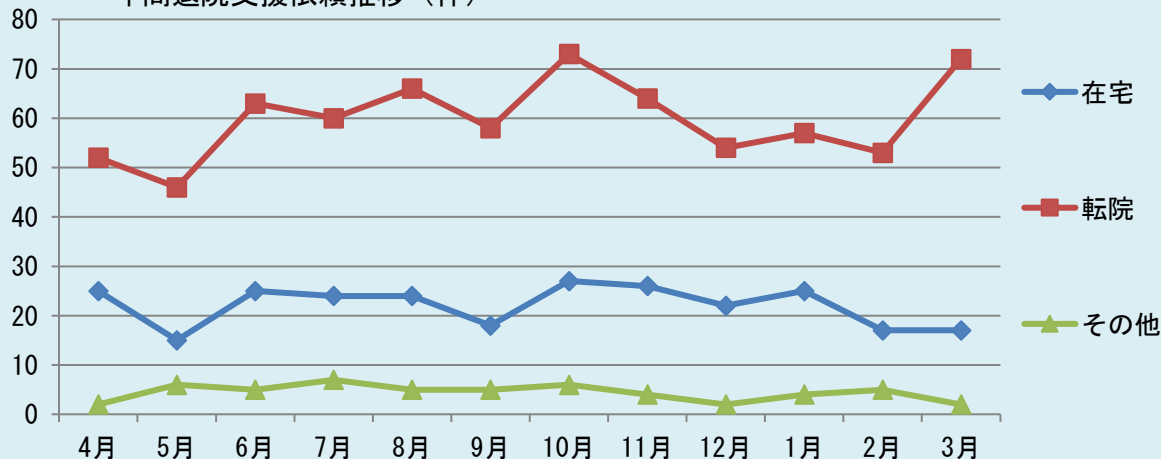
²入退院支援

2 入退院支援

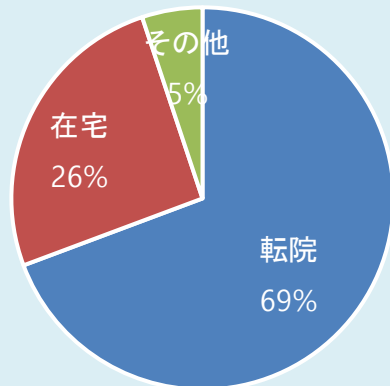
①退院支援依頼と実績

令和元年度の退院支援依頼は1036件（令和元年1045件）で前年度より9件増加したが、当院の規模と稼働率から考えると今後も年間1000件程度で推移すると予想される。退院支援実績は在宅調整272件（同238件）転院調整613件（同667件）その他介護施設などへの調整53件（同49件）であった。コロナ感染抑制のため、転院先での面会制限が影響して在宅療養を選択し、自宅に退院する調整が増えた。また、治療終了後に介護者不在のため自宅退院困難となり、介護施設への入所の調整も増えている。平均在院日数の短縮に伴い、外来通院中や退院後に在宅療養の調整を行うケースも増えている。当院は高度急性期の病院であり、リハビリの継続や在宅環境の準備のための転院や、療養病床への転院調整の依頼が多く、全体の7割を占めている。平均在院日数は10日台で推移しており、病床稼働率も85%を超えているため、速やかな退院調整が求められる。

年間退院支援依頼推移（件）



依頼内容割合（％）

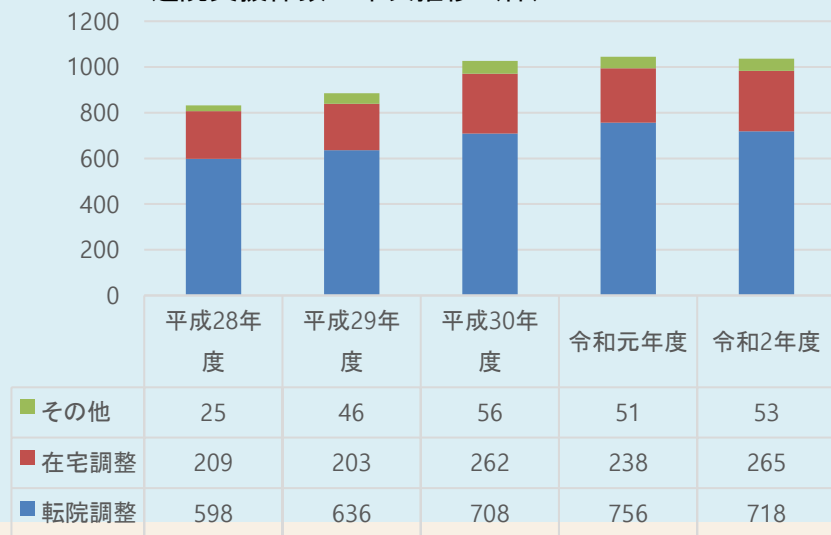


2 入退院支援

②退院支援依頼の年次推移

退院支援依頼件数は年々増加し、平成30年度以降1000件を超えている。特に専門性の高い治療を要しない患者は近隣の一般病床で治療を継続したり、リハビリテーション目的や在宅環境の準備などの目的で転院調整を依頼するケースも多く、転院支援の件数は年々増加している。

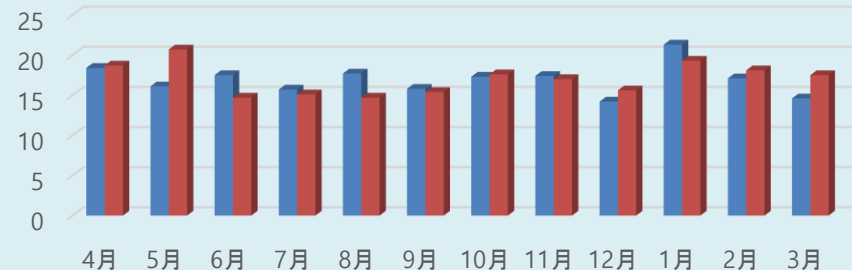
退院支援件数の年次推移（件）



③退院調整日数

退院支援依頼を受けてから転院または退院までに要した日数を退院調整日数とする。令和元年度の平均調整日数は17.7日であった。前年度の平均17日と比較し若干延長している。中央値は13日昨年より1日減少している。患者の社会的背景や複雑な疾病構造により、退院調整に難渋するケースが増えているため平均調整日数は延長していても中央値が減少している。

退院調整日数（日）



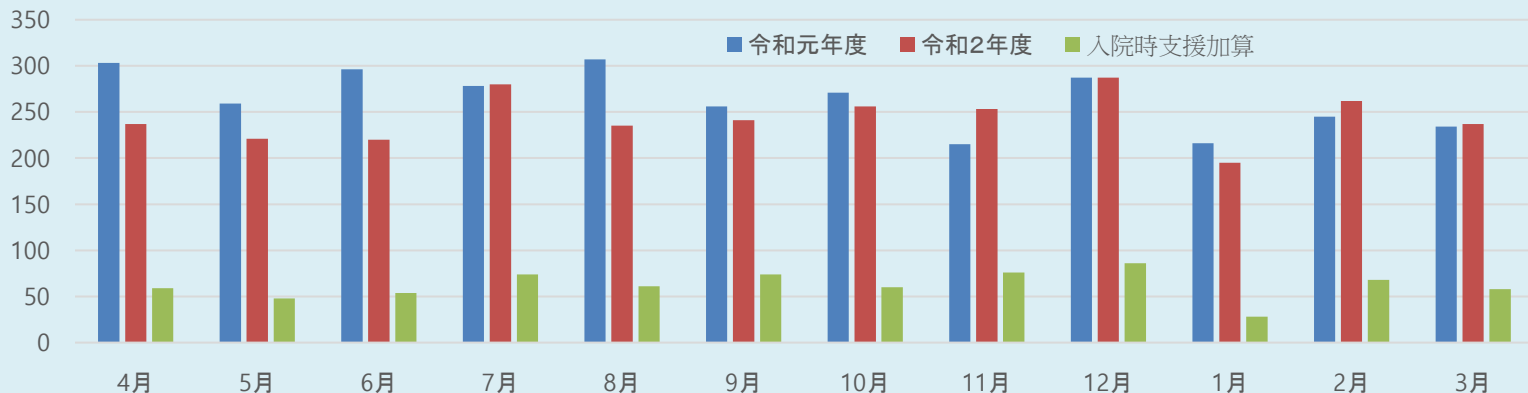
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
令和元年度	18.4	16.1	17.5	15.7	17.7	15.8	17.3	17.4	14.2	21.3	17.1	14.6
令和2年度	18.7	20.7	14.7	15.1	14.7	15.4	17.6	17	15.6	19.3	18.1	17.5
令和2年度中央値	13	14	11	12	12	12	15	11	11	14	14	14

2 入退院支援

④入退院支援加算2 算定件数

入退院支援加算2の算定数は2924件で昨年比243件減少している。入院時に治療方針が見通せず、退院支援計画の着手で滞っているケースもあるため、退院支援依頼を提出する際にチェックをし退院支援計画を作成を依頼している。入院予約・検査説明カウンターにおける看護師の入院前介入が行われ入院時支援加算は746件算定された。小児科の退院支援計画書も作成されるようになり、小児加算も算定されている。

入退院支援加算算定数（件）



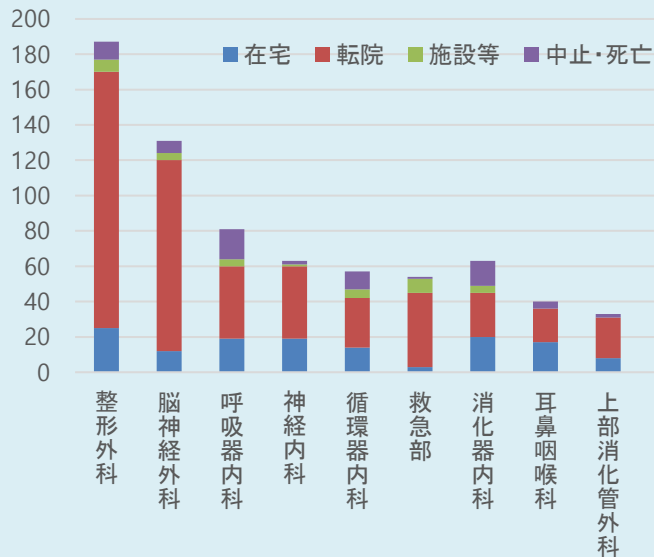
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和元年度	303	259	296	278	307	256	271	215	287	216	245	234	3167
令和2年度	237	221	220	280	235	241	256	253	287	195	262	237	2924
入院時支援加算	59	48	54	74	61	74	60	76	86	28	68	58	746

2 入退院支援

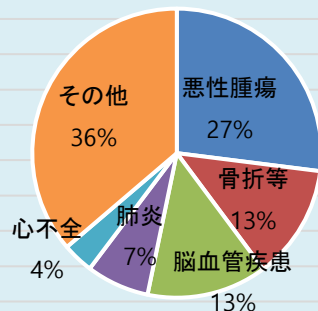
⑤診療科別実績件数

診療科別の実績をみると回復期リハビリテーションへの転院や自宅の環境調整が必要な整形外科と脳神経外科への介入が多く、誤嚥性肺炎や神経難病、脳梗塞、心不全などの疾患で支援が必要な呼吸器内科、循環器内科と続いている。医療処置（HOT 高カロリー輸液 ストーマの処置 経管栄養）を必要とする患者や、看取りなどで在宅医療の調整を行う診療科（呼吸器内科、循環器内科、神経内科 泌尿器科 上部消化管外科）や小児科で在宅支援の割合が高い。転院調整は回復期病床への転院の多い整形外科や脳神経外科が多い。死亡による支援の中止は悪性腫瘍の末期に多いが患者の高齢化により循環器内科の心不全の看取りも増えている。

診療科別支援実数（件）



疾病分類（％）



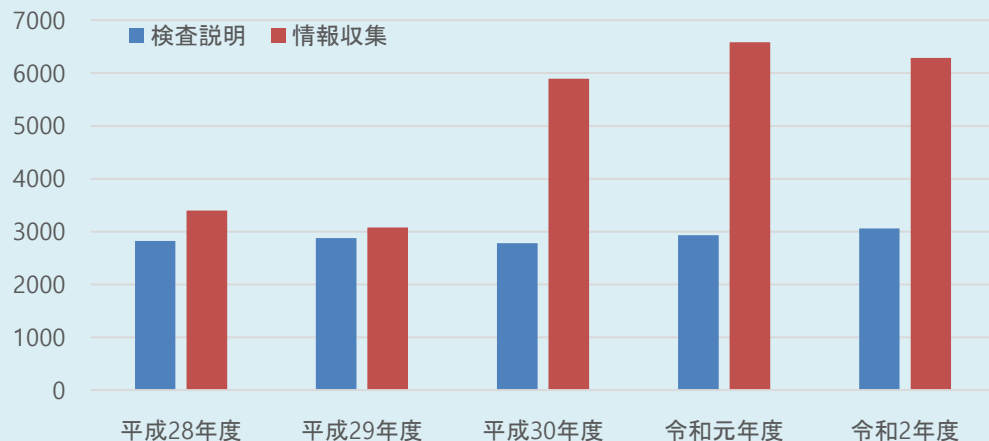
2 入退院支援

⑥入院予約・検査説明カウンター実績報告

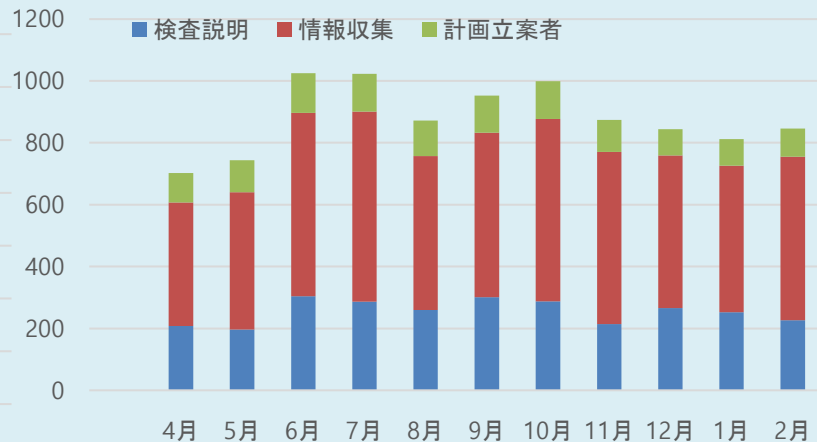
入院予約・検査説明カウンターは3名の常勤職員と2名の非常勤職員の5名の人員が配置されている。

今年度の情報収集患者は6287件であった。検査説明の件数は3058件で、年次推移を見ても当院の診療規模での検査説明件数は3000件弱であると思われる。看護計画の立案数は1259件のうち入院時支援加算の746件となっている。原因は看護計画立案の対象者がクリニカルパス適応患者が多いためと考えられる。手術入院患者には術前オリエンテーションのパンフレットを渡し説明している。入院前に情報をとり看護計画を立案することで、入院生活や治療に必要な情報の把握ができ、必要な支援内容が入院後早期に共有できるようになった。入院による不安に対する相談や疑問の解決をする機会となっているが、薬剤師や栄養士など多職種の介入が不十分であるが、機能強化棟への移転を機に多職種の介入を進めるように調整を開始した。

検査説明・入院前情報収集件数の年次推移（回）



検査説明・入院時情報収集件数(件)

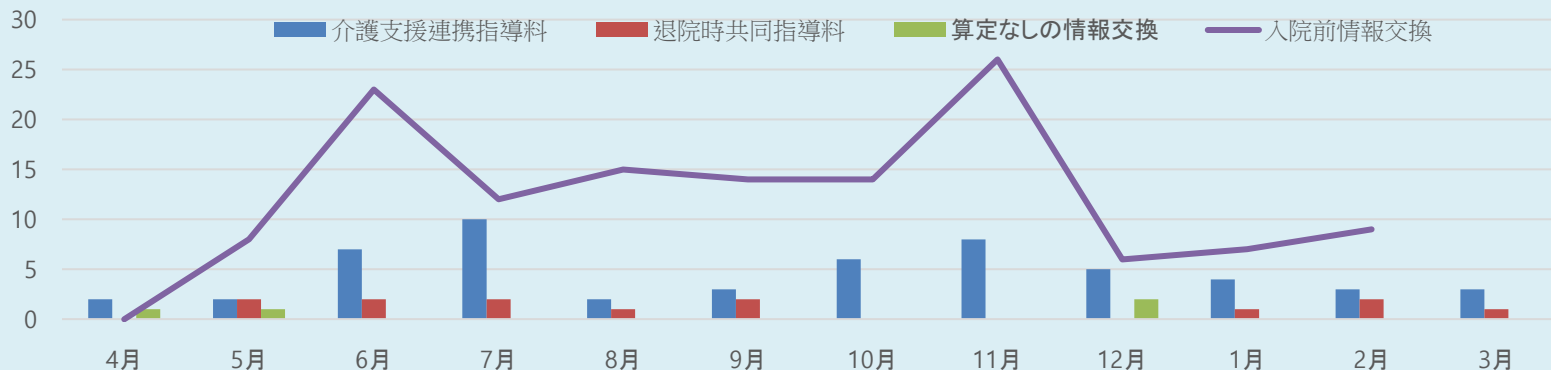


2 入退院支援

⑦ 院外・地域との情報交換や訪問

入院前面談で収集した情報をもとに担当ケアマネジャーに連絡し情報共有を行っている。担当ケアマネジャーから得られた情報は入院病棟に申し送られ、病室やベッドの位置の決定や、安全・安心な入院生活や退院支援に役立てられている。また、退院時には看護情報提供書を作成し入院中の情報を伝えている。しかし、新型コロナウイルス感染症の流行により来院制限がかかり、退院前カンファレンスの開催件数は減少した。今年度、新たな取り組みとしてリモートで退院前カンファレンスを開催したが、介護支援等連携指導や退院時共同指導などの算定数は大きく減っている。ZOOM などを利用してリモートでの開催も始まったが、3件にとどまっている。

院外・地域との情報共有（回）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介護支援連携指導料	2	2	7	10	2	3	6	8	5	4	3	3
退院時共同指導料	0	2	2	2	1	2	0	0	0	1	2	1
算定なしの情報交換	1	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
入院前情報交換	0	8	23	12	15	14	14	26	6	7	9	



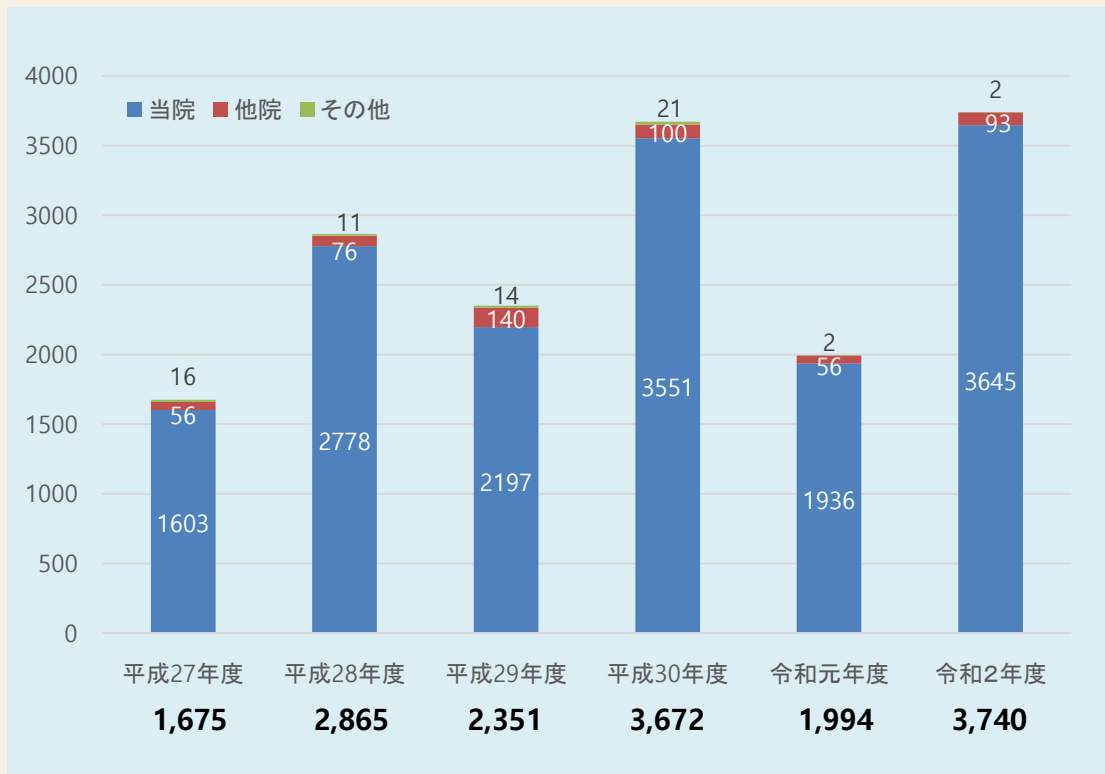
04

がん相談支援センター

がん相談支援センター

- ① 今年度は、新型コロナ感染の影響を受け、患者会や相談会を予定通り開催することができず、開催しても規模を縮小するなど、直接支援のできる機会が限られてしまった。その中でもがん相談に当たった回数は、過去5年間で1番多い3,740回になった（図1）。主にがん相談の対応にあたる医療福祉支援センターの職員増加に伴うところが多いが、相談内容別件数でも上位に挙げられている退院支援について、複雑化してきているところも要因になった。一人暮らしでキーパーソンが不在な場合や、親族がいてもサポートが得られないケースなど、病気になることで問題が現れるケースが少なくない。コロナ感染の影響があり、入院、外来ともに利用者が減少している中、がん相談の件数は横ばいだが、相談に応じた回数が増加してきていることは、今後も注視していきたい。また、身寄りのない、サポートのない問題は、がんに限ったことではないため、院内のマニュアル作りを進めていきたい。

図1 相談回数 年次推移（回）



がん相談支援センター

男女、年齢別相談件数では、60代以上の男性についての相談が多くなっている(図2)。相談内容でも上位を占める、退院先の問題や、医療費についての対応など、仕事を退職される頃に、多くの問題を抱えることが分かる。体の事、お金の事等、支援をしたい(図3)。

図2 男女・年齢別相談件数(件)

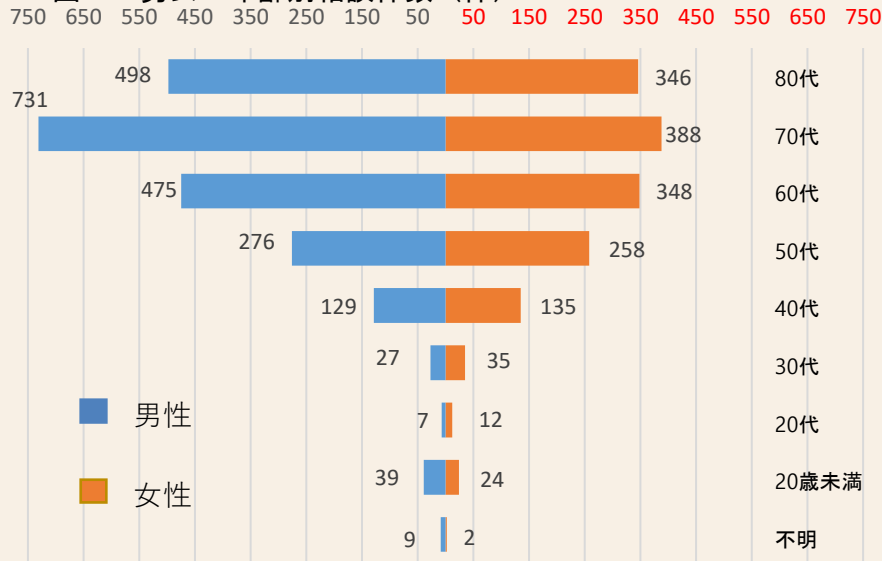


図3 年間 相談内容 トップ10(回)

1	転院	1099
2	在宅医療	1388
3	医療費・生活費・社会保障制度	382
4	ホスピス・緩和ケア	196
5	療養	114
6	受診方法・入院	87
7	医療機関の紹介	76
8	看護	70
9	介護	68
10	不安、精神的苦痛	29

がん相談支援センター

○乳がん患者会スノードロップ

新型コロナウイルス予防のため、4月、1月を中止とし、7月、10月のみの開催

- ・ 7月28日 「みなさんの疑問なんでも聞いてください」 乳腺外科 小倉廣之医師
- ・ 10月23日 「おうち時間に肩のリハビリテーション」 リハビリテーション部作業療法士 中村将人氏

○就労相談会

静岡県産業保健センターの、治療と仕事の両立支援についての専門家である両立支援専門員と協力し、無料の就労相談会を開催した。新型コロナの影響もあり、2回の開催となったが、計4名が参加した。がん治療が通院治療中心になってきているため、完治してから職場復帰するというより、治療をしながら就労継続していけるよう支援している。有給の取り辛さや、休みながら働くと職場の同僚の目が気になるといった相談があり、両立支援員がアドバイスをするなど支えになっている。

- ・ 新型コロナ感染症の影響で2回中止
- ・ 2回開催、のべ4名参加

○ハローワーク出張相談会

長期療養者の新規就労先を探すため、ハローワークに配置されている就労支援ナビゲーターが病院に来院し、実際の求人票を見ながら相談にあたった。計8名の参加があった。治療を続けると医療費もかかる、また就労していることが支えになることがある。新規就労はハードルが高いが、ハローワークと協力し継続していきたい。

- ・ 新型コロナ感染症の影響で2回中止
- ・ 2回開催、のべ10名が参加



がん相談支援センター

○浜松市がん診療連携拠点4病院実務者ミーティング

がん患者の就労促進、情報共有を目的に、基本的に毎月浜松市内のがん診療連携拠点4病院の相談実務者が集まり、ミーティングを行っている。9月に浜松・湖西地区がん患者就労支援ネットワーク協議会（患者会、行政、企業、医療機関参加）を開催。10月には、静岡県労働局と協力し、オンラインにてがん患者の治療と就労の両立支援セミナーを開催、市内企業を中心に84名が参加した。外来治療が中心となっていることもあり、今後も両立支援により一層力を入れていく方針である。

オンラインで開催したアピアランス講習会



オンラインで開催した両立支援セミナー



令和2年9月16日	浜松・湖西地区がん患者就労支援ネットワーク協議会
令和2年10月15日	がん患者と就労の両立支援セミナー
令和3年2月10日	医療従事者向けアピアランス講習会

05

難病医療相談支援センター



難病医療相談支援センター

令和2年度 難病医療コーディネーター目標

- 1 医療従事者研修会を2回以上開催する
- 2 在宅療養患者の継続的な支援を充実させるため
外来での介入方法を検討する

評価・反省

- ①本年度から看護職員が1名増員され、研修会の開催数を増やすよう県疾病対策課から要請があった。COVID-19の影響で従来の対面形式の研修が困難となり、試行錯誤しながらオンライン形式に切り替え実施した。オンラインでの開催にあたり、様々なアプリケーションの使用方法や、著作権への配慮など、未経験の作業が続いたが、なんとか2回開催することができた。研修参加人数は300人を超え、終了後のアンケートでは、オンライン研修を今後も希望する声が多数あがった。会場に移動する必要のないオンライン研修の利点を改めて感じた。

また、オンライン研修会の開催を機に、これまで紙ベースだったアンケートをデジタル化したことで、簡単に集計できるようになった。COVID-19の状況が今後どうなっていくかはまだ分からないが、すでに来年度に向けた研修のテーマがいくつか決まっているため、充実した研修会の開催を今後も継続していきたい。

- ②入院中に関わった神経難病患者は、その後の在宅サービス調整を継続できるように、外来受診日、症状の進行具合、制度の申請の有無、サービス利用の詳細について、一覧表を作成して、外来受診のたびに更新するようにした。そのため、以前より見落としがなくなり、本人や家族と話をする際にも情報を聞き取りやすくなった。
今後も継続して支援をしていきたい。

難病医療相談支援センター

事例検討会出席 5

研修会主催 2 オンライン:難病医療従事者研修会

研修会参加 4 オフライン:感染予防

オンライン:慢性疲労症候群

コロナ禍の在宅医療

ALSカフェ

難病看護・難病医療ネットワーク学会参加 1

難病診療連携懇談会参加 1

難病災害対策協議会共催 1

難病ニューズレター発行 3(第20・21・22号)

就労相談会実施 3

令和3年度 難病医療相談支援室目標

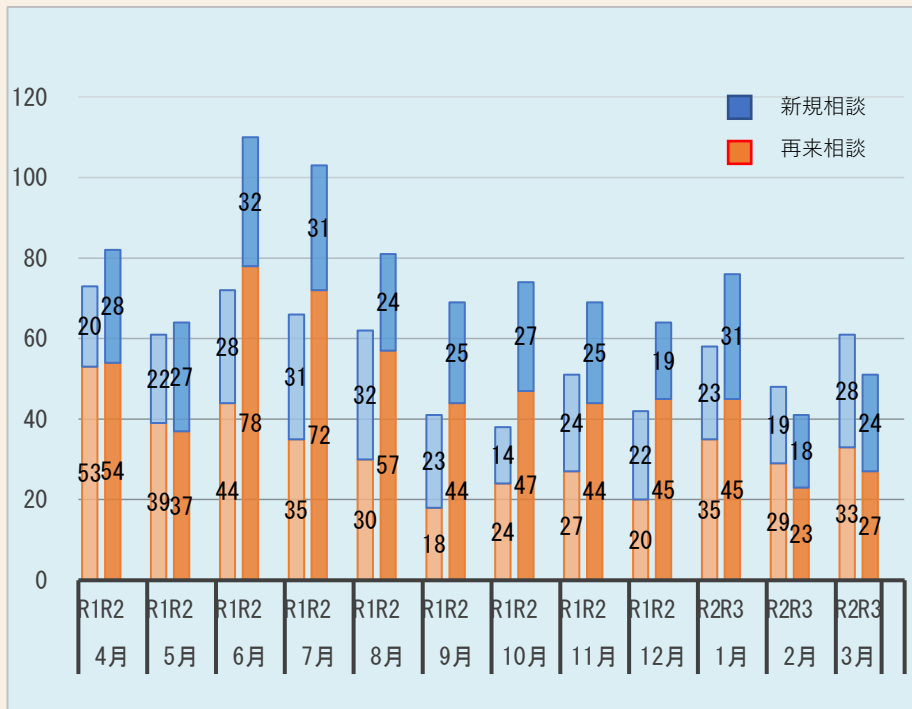
- 1 難病医療相談支援室の業務を明確化し整理する
- 2 新しい生活様式に対応し研修会を継続、充実させる

目標設定の背景

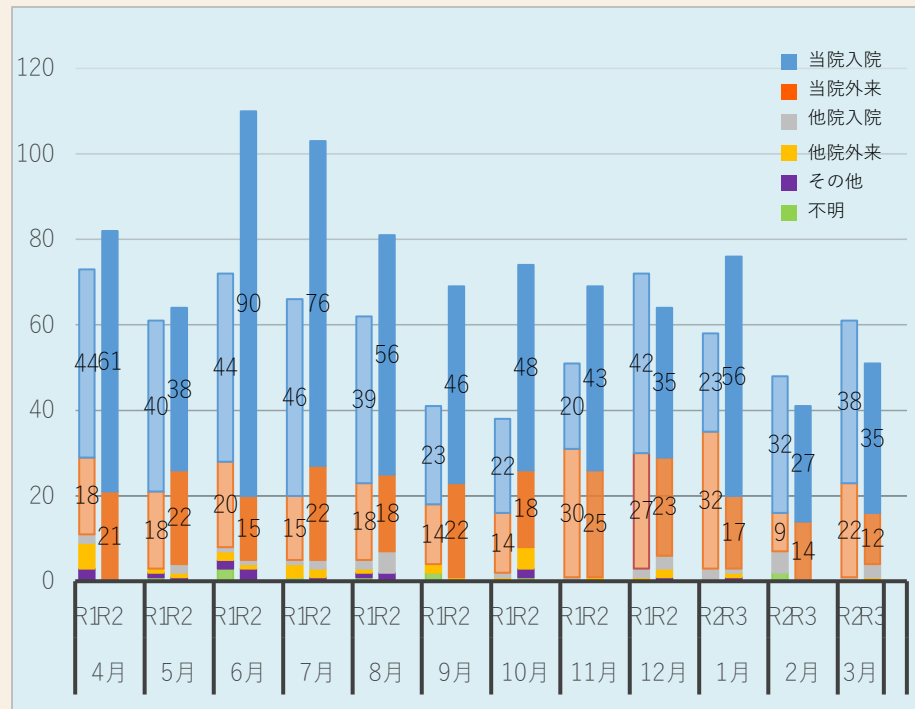
- 1 本年度から当院に「神経・難病センター」が開設される。それに伴い今までの「難病医療相談支援センター」から「難病医療相談支援室」に部署の名称が変更された。今後、神経・難病センターとどのような関りを持つていくのか確認をしながら業務内容を検討していくことになるだろう。
- 2 COVID-19 の影響で今後もオンラインでの研修会開催を余儀なくされると予想できる。オンライン研修は参加しやすい利点があるが、参加者同士の意見交換がしにくいという欠点がある。研修会をより充実させるには昨年度より一歩進んだ動画配信の手技の習得や開催方法の工夫が必要だと考える。

難病医療相談支援センター

新規相談・再来相談 R1, R2年度比（件）

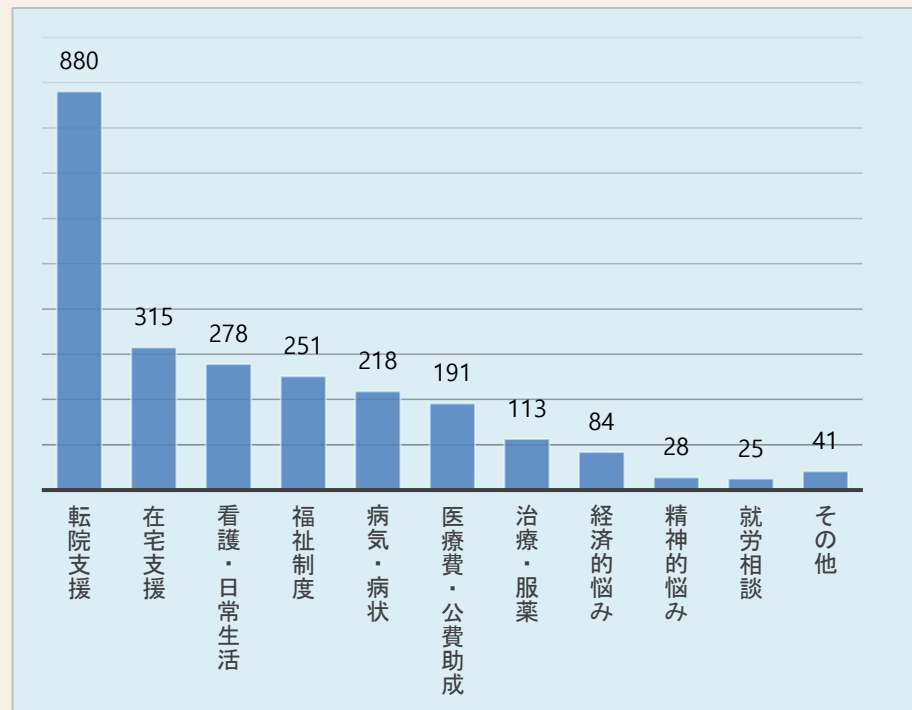


受診状況 R1, R2年度比（件）



難病医療相談支援センター

相談内容（件）

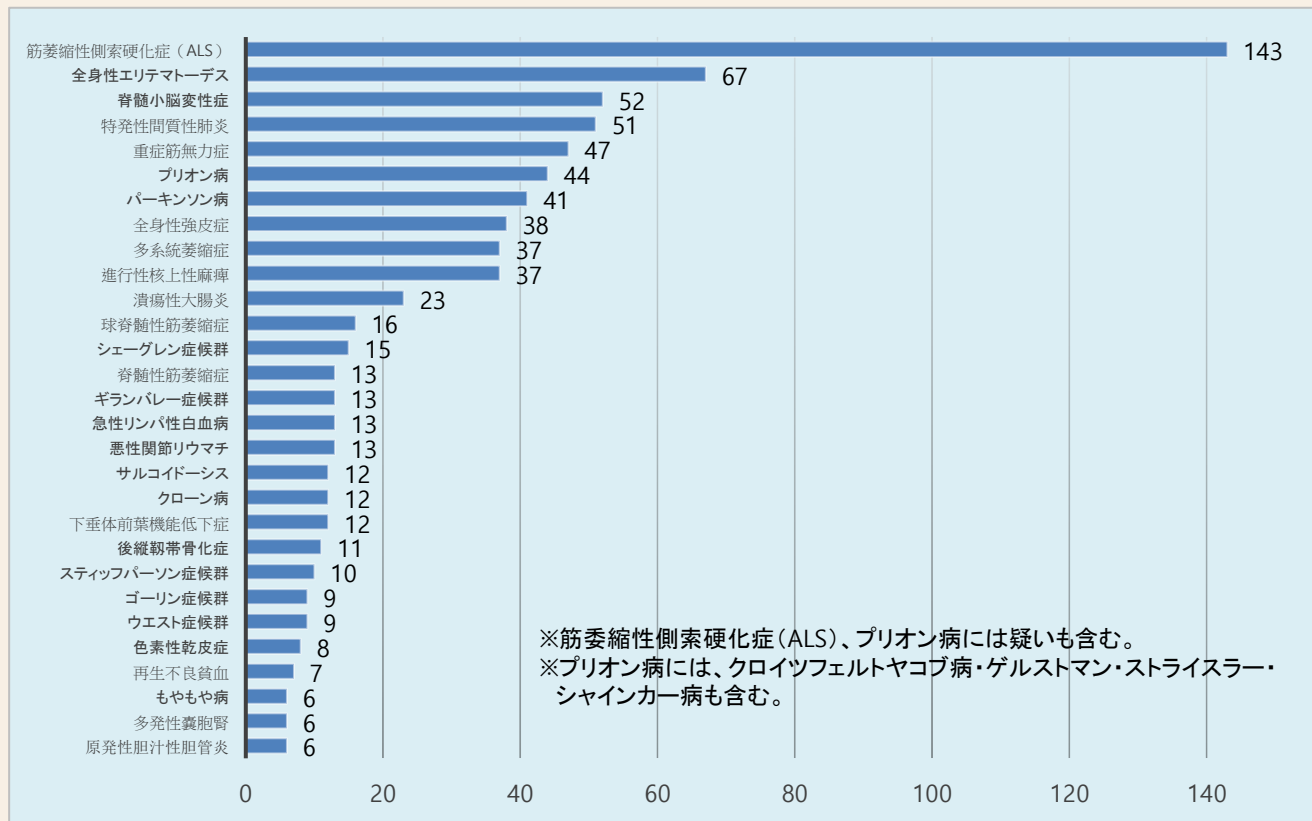


男女・年齢別相談件数（人）



難病医療相談支援センター

相談疾患（件）



難病医療相談支援センター

少数相談疾患

IgA腎症	自己免疫性肝炎	脳腫瘍
IgG4関連疾患	視神経脊髄炎	嚢胞性乾癬
アトピー性皮膚炎	紫斑性腎炎	パーキンソン症候群
遺伝性ジストニア	シャルコーマリートゥース病	肺動脈性高血圧症
遠位型ミオパシー	重積てんかん	B前駆細胞性リンパ性白血病
横紋筋肉腫	上衣腫	肥大型心筋症
下垂体ADH分泌異常症	小児ネフローゼ症候群	左眼網膜芽細胞腫
家族性コレステロール血症	進行性脊髄筋萎縮症	ピッカースタッフ脳幹脳炎
家族性地中海熱	進行性多巣性白質脳症	皮膚筋炎／多発性筋炎
急性骨髄性白血病	スタージ・ウエバー症候群	副腎白質ジストロフィー
急速進行性糸球体腎炎	前頭側頭葉変性症	副腎疲労
嗅神経芽細胞腫	ターナー症候群	ベーチェット病
筋ジストロフィー	高安静脈炎	マルファン疑い
クリッペルトレノネウエーバー症候群	多発血管炎性肉芽腫症	右網膜芽腫
クロウ・深瀬症候群	多発性硬化症／視神経脊髄炎	ライソゾーム病
痙攣重積型急性脳症	胆道閉鎖症	ランゲルハンス組織球症
劇症肝炎	特発性拡張型心筋症	ロキタンスキー症候群
血球貪食症候群	特発性血小板減少症紫斑病	慢性視神経脊髄炎
原発性筋筋束硬化症	特発性後天性全身性無汗症	慢性腎炎
顕微鏡的多発血管炎	特発性ジストニア	慢性疲労症候群
好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	特発性大腿骨骨頭壊死	網膜色素変性症
混合性結合組織病	軟骨無形成症	不明
再発性多発軟骨炎	ネフローゼ症候群	

●難病医療従事者研修会

コロナウィルス感染予防の為、WEB開催
(静岡県疾病対策課YouTubeチャンネルにて限定配信)

・第1回 在宅患者の感染対策について

講師 浜松医科大学医学部附属病院
感染管理認定看護師 澤木ゆかり先生

・第2回 意思決定支援ができる私になるために

講師 浜松医科大学医学部看護学科基礎看護学
教授 片山はるみ先生

●難病患者者災害連絡協議会

ZoomによるWEB会議

①台風事前避難入院に関する沖縄での取り組み

講師 独立行政法人国立病院機構沖縄病院
脳・神経・筋疾患研究センター長
リハビリテーション科部長 諏訪園 秀吾 先生

②パーキンソン患者のマイ・タイムライン作成の取り組み

講師 神奈川県茅ヶ崎市保健所保健予防課
保健師 神保 友里 先生

難病医療相談支援センター

●就労相談会

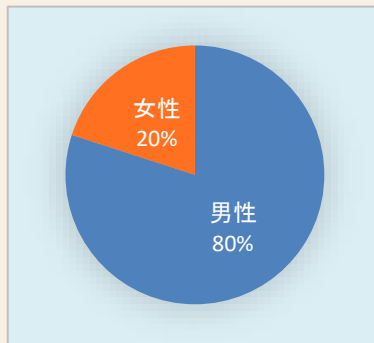
開催日
2020年5月22日※
2020年7月31日
2020年11月27日
2021年1月29日

※コロナウィルス感染予防の為中止

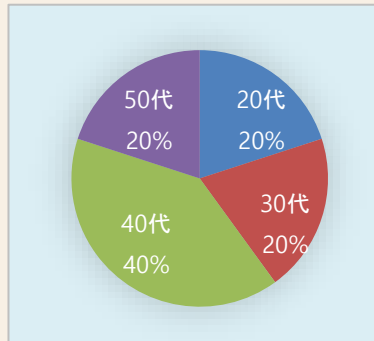
相談疾患

- ・クローン病
- ・混合性結合組織病
- ・色素性乾皮症
- ・多発性硬化症/視神経脊髄炎
- ・特発性ジストニア
- ・慢性腎炎(IgA腎症)

男女比 (%)



年代 (%)



難病患者さんの為の **無料**

病院での**就労相談会**

- ・仕事をしたいけど・・・どうしよう。
- ・治療をしながら仕事ができるのか。
- ・こんな症状があるけど、できる仕事はあるかな。
- ・職種に病気を伝えた方がいいのか・・・

ハローワークの職員と看護師がご相談を伺います。

ご予約です。下記までご連絡ください。

当施設中の患者さんに譲らせていただきます。

相談の結果、具体的な就労支援に移行する場合は、浜松市ハローワークに通っていただくことになります。

日程 2020年7月31日(金)

時間 13:30～16:30 (1人1時間程度)

場所 浜松医科大学医学部附属病院
外来棟 1 階

ご注意

ご相談の方はマスク着用をお願いします。

体調不良の方・体温37.5度以上の方は、ご相談をお断りさせていただきます。

お問合せ先

浜松医科大学医学部附属病院
難病医療相談支援センター

TEL: 053-435-2477

(平日 8:30～16:45)

※ 秋田大学と共同利用の場として今年度より「秋田大学センター」が活用されます。それに
加えて秋田県立センターと秋田県立センターに併設する「県立センター」の活用も、各都府県に
広がります。詳細は「秋田県立センター」のページといたしますが、秋田県立センターの活用も
秋田県立センターと併設する場面に活用いたします。引き続きよろしくお願いいたします。

06 肝疾患連携相談室



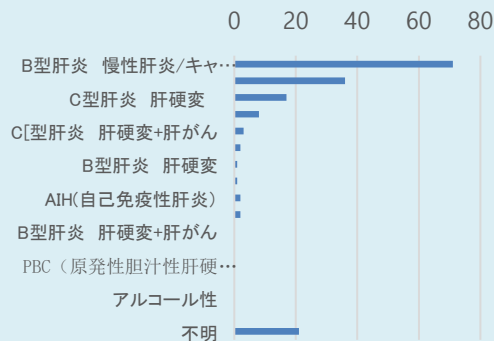
肝疾患連携相談室

静岡県肝疾患診療連携拠点病院事業実施報告

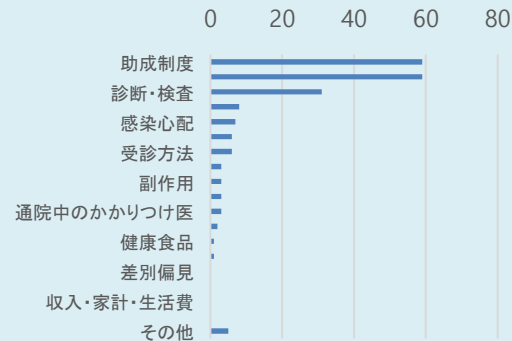
①相談支援事業

令和2年度の肝疾患連携相談室の相談件数は、年間175件（電話75件、面談95件、その他5件）であった。肝炎医療費・検査助成の相談説明及び肝炎給付金の相談が各59件、診断検査相談が31件となった。B型肝炎給付金は請求期限が2022年1月12日となっていたためか急増した。

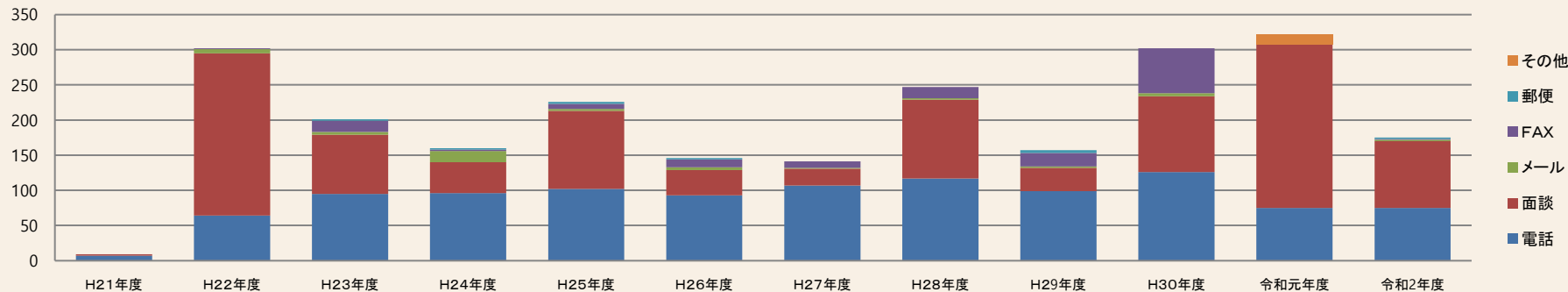
令和2年度 疾病別件数



令和2年度 相談内容別件数



相談件数年次推移(件)



肝疾患連携相談室

医療従事者、地域住民等を対象とした研修会、講演会等

①医療従事者を対象とした研修会等

I. 2020. 7. 22 (水) 感染対策講習会 会場型及びビデオ講習

参加者：院内の医療従事者 会場181名 ビデオ講習：692名

内 容：「当院におけるウイルス性肝炎の対応について」

II. 2021. 2. 25 (木) 肝疾患かかりつけ医研修会 WEBライブ配信

参加者：肝疾患かかりつけ医 41名

内 容：「静岡県の肝炎対策」「脂肪肝について」「肝がんについて」

III. 2021. 2. 15 (月) ～2. 28 (日) 静岡県肝炎医療コーディネーター養成研修会 WEB配信

参加者：医療機関職員・市町・保健所・企業・団体・かんゆう会等患者団体 90名

内 容：「静岡県の肝炎対策及びコーディネーターに期待される役割」「患者団体の活動」

「ウイルス性肝炎の診断と治療」「肝硬変、肝がん、NASH等の診断と治療」

「拠点病院の活動報告」

※静岡県肝炎医療コーディネーター登録更新研修会を2021. 1. 14開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止となった。

肝疾患連携相談室

②患者、患者家族及び地域住民を対象とした講演会等

I. 市民公開講座『もっと知ろう！肝臓病』

①2020.10.3（土） 会場型 参加者：30名

内容：「もっと知ろう！ウイルス性肝炎」「脂肪肝にならないために」

共催：静岡県西部保健所

②2020.11.28（土） 会場型 参加者：13名

内容：「ウイルス性肝炎（B型・C型）について」「肝臓がんの診断と治療について」

主催：日本肝臓学会

共催：静岡市、静岡県肝疾患診療連携拠点病院

後援：厚生労働省、静岡県医師会、静岡市静岡医師会、静岡県

③2021.2.15（月）～3月14日（日）WEB配信 アクセス数：264件（平均アクセス数）

内容：「ウイルス性肝炎について」「脂肪肝について」「肝がんについて」

共催：浜松市、静岡県西部保健所

肝疾患連携相談室

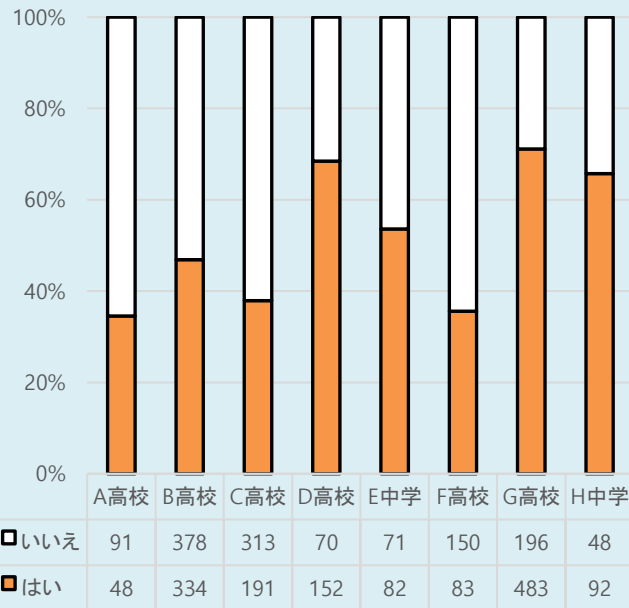
Ⅱ. 出張肝臓病教室

- ・ 静岡県内の中学生及び静岡県立高等学校を対象とした肝臓病教室を開催した。
13校より申込があり8校開催、5校は新型コロナウイルス感染症拡大のため中止となった。家族への普及啓発という目的もあり、開催後アンケートを実施。
- ・ 医療福祉支援センターニュース「かけはし」において、紹介記事を掲載

①2020. 6. 15（月）伊東高等学校	参加者： 145名（3年生）
②2020. 10. 8（木）浜松西高等学校	参加者： 730名（全校生徒）
③2020. 10. 14（水）富岳館高等学校	参加者： 237名（3年生）
④2020. 10. 19（月）静岡西高等学校	参加者： 540名（全校生徒）
⑤2020. 10. 22（木）函南中学校	参加者： 165名（3年生）
⑥2020. 11. 17（火）浜松南高等学校	参加者： 1,061名（全校生徒）
⑦2020. 12. 18（金）浜松市立高等学校	参加者： 1,230名（全校生徒）
⑧2021. 2. 4（木）磐田第一中学校	参加者： 163名（2年生）

※肝臓病教室/患者サロン交流・情報交換会「ガーベラの会」は、
新型コロナウイルス感染症のため中止となった。

家族に講演内容を伝えたり、
リーフレットを見せましたか？



肝疾患連携相談室

肝疾患診療連携拠点病院等連携連絡協議会

肝疾患診療連携拠点病院等連絡協議会は、静岡県肝疾患診療連携拠点病院である当院と順天堂大学医学部附属静岡病院が1年毎の交代制となり、令和2年度は当院が企画・運営し連絡協議会を開催した。参加者：43名

肝疾患診療に関する情報収集及び情報提供

(1) 肝炎に関する普及啓発と感染予防の推進活動

1) 一般市民への普及啓発活動

①WEB広告

期 間：2020.7.9（木）～2020.11.30（月）

内 容：WEB上（Yahoo・Googleリスティング広告、YDN/GDNディスプレイ広告、YDNインフィード広告）に広告を掲載

方 法：WEB上の広告をクリックするとランディングページへ移行。そのランディングページにおいて、無料肝炎ウイルス検査受検の呼びかけを行う。

エ リ ア：静岡県内全域

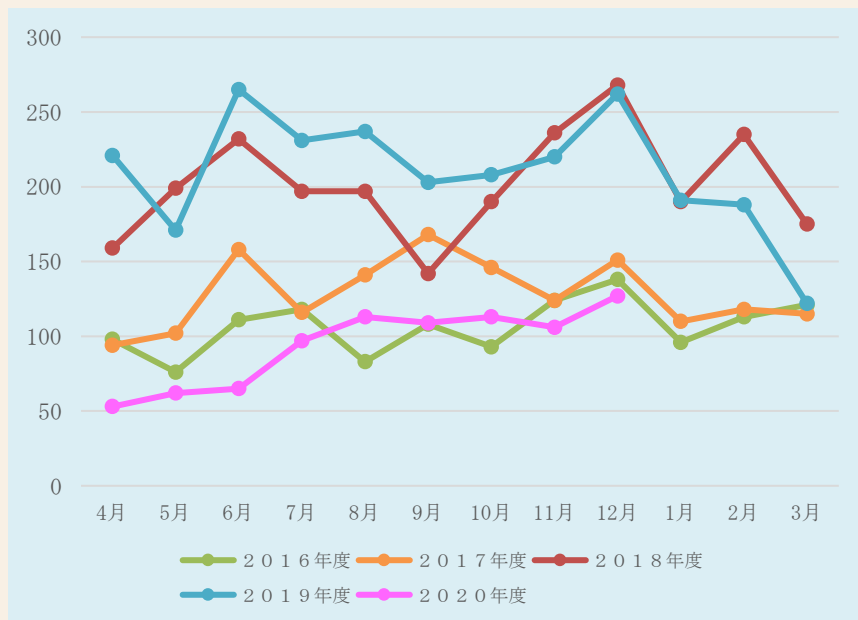
年 齢：15歳～無制限（※GDNディスプレイ広告は、18歳以上～無制限）

利用者層：タトゥー・ピアスをしている又はしようと考えている方等

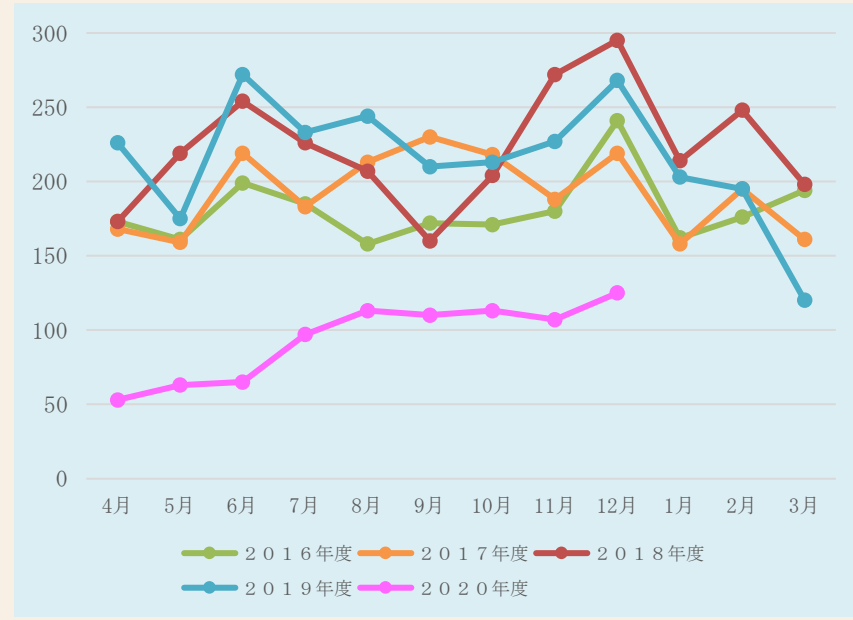
結 果：全体の表示数は減少したがクリック数が増加した事により、クリック単価を抑える事ができ、効率的に幅広く広告をする事ができた。しかしながら、肝炎ウイルス検査の受検数は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、受検数が減少し広告効果があったかどうかまでは言えない。

肝疾患連携相談室

年度別 保健所のHCV検査の受検数(件)



年度別 保健所のHBs検査の受検数(件)



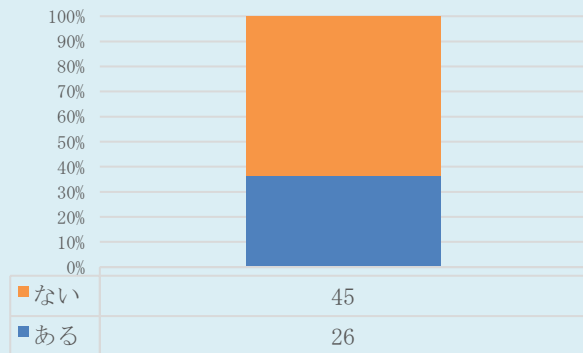
肝疾患連携相談室

②静岡県合同啓発促進活動

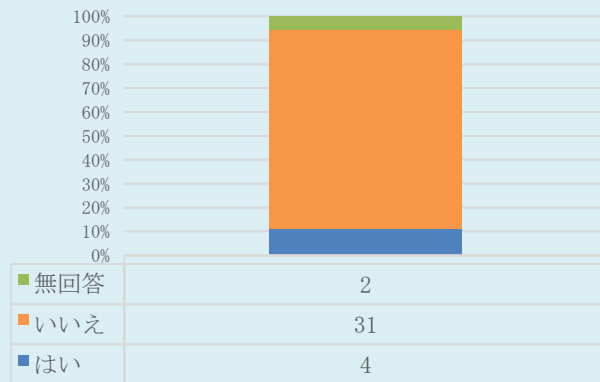
新型コロナウイルス感染症の感染拡大により中止となったが、配布物「瞬間冷却剤ドンピエール」を作成していたため
両拠点病院及び各保健所にて配布。

また、配布の際、二次元コード付きリーフレットを同封しアンケートを実施

肝炎ウイルス検査普及啓発用の
WEB広告を見たことがありますか？



肝炎ウイルス検査を受けたことが「ある」と
回答した方へ質問
WEB広告をみて肝炎ウイルス検査を受けましたか？



肝疾患連携相談室

③院内普及啓発活動

日時：2020.7.27（月）～7.31（金）

場 所：当院の内科外来、7階西病棟、医療福祉支援センター、
入院予約カウンター

内 容：⑦内科外来及び7階西病棟の看護師及び肝臓内科、
医師、医療福祉支援センタースタッフが、
普及啓発活動用に作成したTシャツを着用
⑧医療福祉支援センター及び入院予約カウンター
において、相談、説明の際、普及啓発活動用に作成
した配布物（瞬間冷却剤ドンピエール）を配布

④TVコマーシャルの出演

両拠点病院の川田医師及び玄田医師が、製薬会社のＴＶコマーシャルに主演し、民放４社（期間：2020.9.24～10.31）において放映された。



肝疾患連携相談室

⑤排除カードの作成

2021. 4. 1より試験運用開始予定

目 的：SVR後の肝臓病手帳の活用及び患者自身へHCV抗体検査及びHCV-RNA検査の結果について理解してもらい不要な検査を防ぐため。

配布方法：C型肝炎SVRの患者へ、肝臓病手帳とともに渡す。
この排除カードはシールタイプのため、肝臓病手帳のプロフィールへ貼付が可能となる。また、財布等のカード入れに入れておくことも可能となる。

⑥御前崎ケーブルテレビによる「WEB配信市民公開講座」の放映

御前崎ケーブルテレビより依頼があり放送が決定した。

番組：お茶の間ステーションプラス 1日3回×7日 21回放送
期間：2021. 3. 6~12

⑦普及啓発用マスクの作成

啓発用に作成したTシャツデザインと同じロゴを使用し作成

2021年度より毎月28日の啓発活動日の際着用



肝疾患連携相談室

2) 肝炎医療コーディネーターの活動推進及び当院の 肝炎医療コーディネーターの育成

①活動推進

- ・街頭キャンペーン及びジュピロ磐田での普及啓発活動を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により中止となった。
- ・「コーディネーターの活動について」の講演を実施
肝炎医療コーディネーター養成研修会
開催方法：WEB配信 製薬会社依頼による講演会
開催方法：ハイブリッド型

②当院の肝炎医療コーディネーターの育成

- ・肝炎ウイルス検査陽性者の受診・受療の推奨依頼
- ・普及啓発活動用の配布資材や着用するTシャツのデザインの考案から肝炎デー・肝臓週間に伴う啓発活動を実施
- ・2021.3.26（金）コーディネーター会議開催し、2021年度より毎月28日を啓発活動日（マスク着用）とした。

3) 肝疾患診療に関する情報提供

①肝炎ウイルス検査陽性者用診療情報提供書の作成

- 目的：医療機関での紹介状作成の負担を軽減し、気軽に紹介してもらうため
- 周知：2020年6月及び2020年2月地域連携経由医療機関135施設、2020年10月「はんだやまの風・10月号」において紹介記事を掲載1,250施設へ配布

②肝炎等克服実用化研究事業

- 「ウイルス性肝炎の薬剤耐性が及ぼす病態変化に関する研究（研究代表者：黒崎雅之）」の発足及び薬剤耐変異の測定再開の情報提供2020年5月 地域拠点病院12施設及びかかりつけ医93施設へ測定再開の文書を送付し、ホームページの更新も行った。

肝疾患連携相談室

(2) 「肝臓病手帳」の普及・推進活動の継続

肝臓病手帳配布数：318冊配布

＜内訳＞医療/行政機関：10施設・240冊、調剤薬局：2施設・13冊、
一般市民：65名・65冊

(3) ウイルス検査陽性者への受診勧奨の推進

- 1) 免疫抑制剤療法・がん化学療法により発症するHBV再活性化予防アラートシステムの推進

2020. 8. 1導入開始

方法：副腎皮質ステロイド薬や免疫抑制剤、抗癌剤の内服薬や注射薬をオーダーした場合、B型肝炎ウイルス検査施行の注意喚起とB型肝炎ウイルス再活性化予防のアラートを表示

周知：全病院職員に向けメールを送信

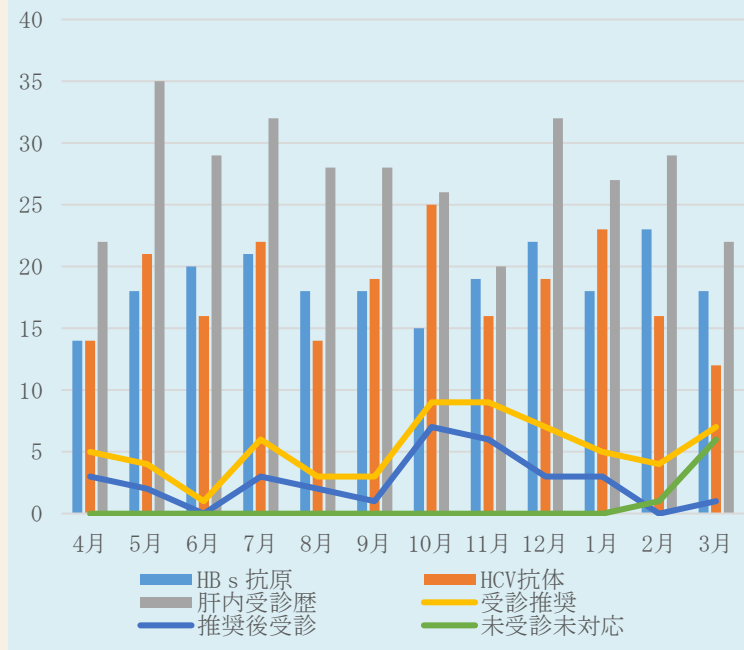
- 2) 肝炎ウイルス検査陽性者の院内フォローアップの推進

2018. 6. 1より入院患者を対象に開始し、2019年7月より外来患者も加え実施外来・入院患者の肝炎ウイルス検査陽性者をピックアップし、未受診患者の受診勧奨を医師へ依頼

＜結果＞

未受診者63名に電子カルテの付箋機能を利用し、受診勧奨を実施
57名の患者がHCV-RNA検査を実施あるいは肝臓内科へ受診6名が未対応の状態（但し、5名は2021年3月末電子カルテの付箋を貼付したものである）

肝炎ウイルス検査陽性者のフォローアップグラフ





07

研修並びに会議等の 実績

研修並びに会議等の実績

医療福祉支援センターの実績

【研究発表・講演会等】

1	小林利彦	第9章 医療情報システム. 令和2年度（第30回） 医業経営コンサルタント指定講座カリキュラム	オンライン収録	2020. 04. 04
2	小林利彦	病院機能評価3rdG:Ver. 2. 0の概要説明 富士宮市立病院	リモート講演	2020. 04. 21
3	小林利彦	感染症の基本知識. e-Learning in Shizuka (1)	リモート講演	2020. 04. 26
4	小林利彦	「3密」から「3Tele」への展開 第2回全国オンライン連携室	リモート講演	2020. 05. 11
5	小林利彦	「オンライン診療」に関する基本的知識 e-Learning in Shizuka (2)	リモート講演	2020. 05. 17
6	小林利彦	分かりやすい文章の書き方を学ぼう e-Learning in Shizuka (3)	リモート講演	2020. 06. 14
7	小林利彦	第2章 診療支援業務と配置部署における診療の流れ 日本病院会 医師事務作業補助者コース研修会	オンライン収録	2020. 06. 21
8	小林利彦	「病床機能報告データ」から見える病院の機能評価と機能分化の方向性 第2回日本在宅医療連合学会大会 シンポジウム30	リモート講演	2020. 06. 27
9	小林利彦	特定機能病院を審査するために必要な知識 日本医療機能評価機構 一般病院3担当者研修会	リモート講演	2020. 07. 12
10	小林利彦	地域連携 I（第3回・第4回） 実践的病院経営マネジメント人材養成プラン（M×M KOBE）	リモート講演 （神戸）	2020. 07. 18
11	小林利彦	3rdG:Ver. 2. 0の項目体系のポイント①（診療サーベイヤールの視点から） 日本医療機能評価機構研修会	リモート講演	2020. 07. 31
12	小林利彦	特定機能病院における組織管理とガバナンスのあり方 2020年度特定機能病院管理者研修	オンライン収録	2020. 08. 04

研修並びに会議等の実績

13	小林利彦	資源管理Ⅱ「看護実践における情報管理」 聖隷三方原病院認定看護管理者教育課程ファーストレベル	浜松	2020.08.24
14	小林利彦	医療クラークに求められるもの～これからの医療秘書～ 滋賀短期大学ビジネスコミュニケーション学科[授業]	リモート講演	2020.09.08
15	小林利彦	働き方改革の今後－看護職副院長の役割－ 日本看護職副院長連絡協議会	リモート講演	2020.09.11
16	小林利彦	消化管疾患について－内科と外科の役割分担－ e-Learning in Shizuoka	リモート講演	2020.09.13
17	小林利彦	医師のキャリアパス Welcome Seminar in Shizuoka 2020	静岡	2020.09.19
18	小林利彦	医師事務作業補助者のキャリアデザインを考慮した生涯教育の重要性 第22回日本医療マネジメント学会学術総会 シンポジウム11 チーム医療を支える医師事務作業補助者の生涯教育について考える	京都	2020.10.07
19	小林利彦	タスクシフト/シェアの方向性と医療クラークの今後 第23回 静岡県の医療クラークを育てる会	静岡	2020.10.11
20	小林利彦	「地域で考える医療機関の働き方改革」～医療勤務環境改善支援センター のスタッフが知っておくべきこと～ 令和2年度 厚生労働省委託事業 「医療従事者勤務環境改善のための助言及び調査業務」ブロック研修会	リモート講演	2020.10.12
21	小林利彦	「地域で考える医療機関の働き方改革」～医療勤務環境改善支援センター のスタッフが知っておくべきこと～ 令和3年度 厚生労働省委託事業 「医療従事者勤務環境改善のための助言及び調査業務」ブロック研修会	リモート講演	2020.10.14
22	小林利彦	「地域で考える医療機関の働き方改革」～医療勤務環境改善支援センター のスタッフが知っておくべきこと～ 令和4年度 厚生労働省委託事業 「医療従事者勤務環境改善のための助言及び調査業務」ブロック研修会	リモート講演	2020.10.16

研修並びに会議等の実績

23	小林利彦	これからの時代の医療クラーク像を考える 秋田県厚生農業協同組合連合会 令和2年度 医師事務作業補助研修会	リモート講演	2020. 10. 17
24	小林利彦	「地域で考える医療機関の働き方改革」～医療勤務環境改善支援センターのスタッフが知っておくべきこと～ 令和2年度 厚生労働省委託事業 「医療従事者勤務環境改善のための助言及び調査業務」ブロック研修会	リモート講演	2020. 10. 19
25	小林利彦	「地域で考える医療機関の働き方改革」～医療勤務環境改善支援センターのスタッフが知っておくべきこと～ 令和2年度 厚生労働省委託事業 「医療従事者勤務環境改善のための助言及び調査業務」ブロック研修会	リモート講演	2020. 10. 21
26	小林利彦	働き方改革の今後～チーム医療のキーパーソンである看護師に期待されること～ 令和2年度看護管理研修	浜松	2020. 11. 07
27	小林利彦 合田敏尚（座長）	第25回静岡健康・長寿学術フォーラム 県民フォーラム 「地域住民の健康・長寿を支える専門多職種の活動」	静岡	2020. 11. 14
28	小林利彦	消化器疾患について－肝胆膵領域－ e-Learning in Shizuoka	リモート講演	2020. 11. 15
29	小林利彦	インターネットを活用した医療提供サービスのこれから ～患者を慮る仕組みづくり～（座長） 第40回医療情報学連合大会・第21回日本医療情報学会学術大会	浜松	2020. 11. 20
30	小林利彦	「タスク・シフティング」を意識した電子カルテ代行入力の在り方を語る（座長） 第40回医療情報学連合大会・第21回日本医療情報学会学術大会	浜松	2020. 11. 21
31	小林利彦	医療情報に関するナレッジ・マネジメントの在り方 第40回医療情報学連合大会・第21回日本医療情報学会学術大会 産学官連携企画 1 医療情報システムの貢献を測り、展望を図る（第1部）	浜松	2020. 11. 22
32	小林利彦	項目解説（診療） 日本医療機能評価機構研修会	オンライン収録	2020. 11. 30

研修並びに会議等の実績

33	小林利彦	公立・公的医療機関等の具体的対応方針の再検証にかかるワーキンググループ[富士]	リモート講演	2020.12.01
34	小林利彦	公立・公的医療機関等の具体的対応方針の再検証にかかるワーキンググループ[中東遠]	リモート講演	2020.12.08
35	小林利彦	オンライン診療について知っておくべきこと. 令和2年度保険診療講演会	浜松	2020.12.16
36	小林利彦	特定共同指導の実際とその対応策. 山口大学病院研修会	リモート講演	2020.12.18
37	小林利彦 (座長)	医療機能再編支援ワーキング[第1回]	リモート講演	2021.01.15
38	小林利彦	公立・公的医療機関等の具体的対応方針の再検証にかかるワーキンググループ[西部]	リモート講演	2020.12.24
39	小林利彦	公立・公的医療機関等の具体的対応方針の再検証にかかるワーキンググループ[三島]	リモート講演	2021.01.06
40	小林利彦	公立・公的医療機関等の具体的対応方針の再検証にかかるワーキンググループ[駿東]	リモート講演	2021.01.13
41	小林利彦 (座長)	医療機能再編支援ワーキング[第2回]	リモート講演	2021.01.15
42	小林利彦	静岡県の現状と県医師会勤務医委員会の活動. キャリア支援シンポジウム「withコロナにおけるキャリアパスと働き方」	浜松	2021.01.29
43	小林利彦	公立・公的医療機関等の具体的対応方針の再検証にかかるワーキンググループ[静岡]	リモート講演	2021.02.08
44	小林利彦	公立・公的医療機関等の具体的対応方針の再検証にかかるワーキンググループ[静岡]	リモート講演	2021.02.16
45	小林利彦 (座長)	医療機能再編支援ワーキング[第3回]	リモート講演	2021.02.19

研修並びに会議等の実績

46	小林利彦	静岡県の現況と医師会活動． 静岡県臨床研修医教育セミナー	静岡	2021. 02. 20
47	小林利彦	医療文書の書き方の基本とピットフォール 日本医師事務作業補助研究会 2020年度第2回大阪実務者セミナー 臨床支援士として～求められる資質求められるスキル～	リモート講演	2021. 02. 27
48	小林利彦	新型コロナ時代の地域連携や保険診療． 山形大学病院 [保険診療に関する講演会]	リモート講演	2021. 03. 12
49	小林利彦	オープンデータベースの利活用ーDPCデータベースを中心にー Nakama Project[病院事務職員のスキルアップを目指して]	リモート講演	2021. 03. 28
50	小林利彦	IPWの実践に向けた行動規範 ～医療従事者としてワンランク上を目指すために～ Nakama Project[病院事務職員のスキルアップを目指して]	リモート講演	2021. 03. 28

研修並びに会議等の実績

【著書・論文・コラム等】

1	小林利彦	医業経営コンサルタント指定講座 一次試験テキスト（分担執筆） 第9章医療情報システム pp393-437	（公社）日本医業経営コンサルタント協会 東京 2020
2	小林利彦	「静岡県医師会キャリア支援センター」の位置づけと役割	静岡県医師会報1584：9-11，2020
3	小林利彦	「新型コロナウイルスへの対応からみる医療機関の病床機能と病床数」	日本医事新報5011：24-25，2020
4	小林利彦	医療関係者が知っておくべき「新型コロナウイルス感染症」への対応ガイド	医事業務583：2，2020
5	小林利彦	外来機能の明確化」は都市部の検討課題	日本医事新報5014：59，2020
6	小林利彦	多文化共生と地域医療－在留外国人へのサービス向上が課題	日本医事新報5016：64，2020
7	小林利彦	ポスト・コロナ時代の働き方改革	医事業務584：16，2020
8	小林利彦	医療機関の事務職員が今できること ～診療報酬改定をあらためて見直すなど～	医事業務585：52，2020
9	小林利彦	地域における少数医療系専門職の存在価値	日本医事新報5021：68，2020
10	小林利彦	医師事務作業補助者コーステキスト（第7版）pp57-77（分担執筆） 第2章 診療支援業務と配置部署における診療の流れ	一般社団法人日本病院会．2020
11	小林利彦	「在宅医療等」という言葉の曖昧さ シズケアサポートセンターだより	静岡県医師会報1588：17-19，2020
12	小林利彦	ウィズコロナ・アフターコロナ時代を生きる	医事業務586：66，2020
13	小林利彦	骨太方針2020	医事業務588：2，2020
14	小林利彦	新型コロナで経営に陰り、「地域医療連携推進法人」の活用も一案	日本医事新報5029：61-62，2020

研修並びに会議等の実績

15	小林利彦	医師の時間外労働規制についてー「評価機能」という言葉を知っていますか？	はんだ山の風 第41号5-7, 2020
16	小林利彦	病床機能報告が通年化になる？	医事業務590 : 2, 2020
17	小林利彦	「地域連携室」の来し方行く先	日本医事新報5034:64, 2020
18	小林利彦	「医師の働き方改革」は地域の医療を守れるのか？	日本医事新報5037:59-60, 2020
19	小林利彦	Generation Z (Z 世代) の医師の時代は？	医事業務592 : 60, 2020
20	小林利彦	医療情報システムのオープン化に向けた懸念	医事業務594 : 25, 2020
21	小林利彦	「静岡県医師バンク」の開設に向けて～新しいアプローチへの挑戦～	静岡県医師会報1591 : 1-3, 2020
22	小林利彦	地域の医療関連データを適切な意思決定につなげるために	日本医事新報5044:62-63, 2020
23	小林利彦	医師の地域偏在に対して現場の医療関係者ができることは何か？	国立医療学会誌 医療74 : 494 - 497, 2020
24	小林利彦	学会・研究会の意義と在り方	医事業務595 : 50, 2021
25	小林利彦	新興感染症対策と医師の時間外労働規制	日本医事新報5049 : 53-54, 2021
26	小林利彦	医療計画に「新興感染症等の感染拡大時における医療」が加わる	医事業務597 : 53, 2021
27	小林利彦	医療安全と組織マネジメント～Safety-I からSafety-II への意識改革～ 第44回日本血液事業学会総会/教育講演 2	血液事業43 : 369-372, 2021
28	小林利彦	「連携B水準」と地域の救急医療	日本医事新報5053 : 60-61, 2021
29	小林利彦	傷病手当金の支給期間の公平化	医事業務599 : 37, 2021
30	小林利彦	大学病院における専門業務型裁量労働制の適用	日本医事新報5056 : 59, 2021
31	小林利彦	医師事務作業補助者の活用と教育	医学のあゆみ276 (13) 1188-1192. 2021

研修並びに会議等の実績

【ラジオ・テレビ等】

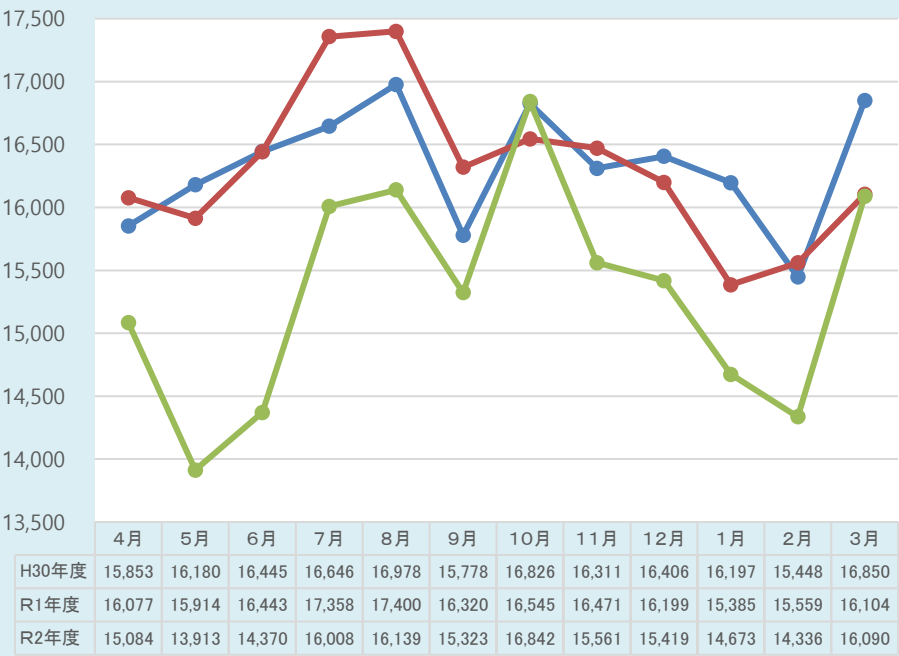
1	「ステイホーム」での健康管理	SBSサンデークリニック (ラジオ出演)	2020. 06. 14
2	清水・桜が丘病院移転問題 老朽化も深刻だが”医師不足”も国は「再編統合」 で名指し	テレしず (インターネット)	2020. 07. 02
3	浜松健康フォーラム スタートアップ特集	K-MIX (ラジオ出演)	2020. 08. 25
4	県東部のコロナ病床不足 県医師会 小林副会長が警鐘	中日新聞	2020. 09. 08
5	病床使用率55.9% 静岡県内、高齢者対応が鍵	静岡新聞NEWS	2020. 12. 01
6	医療者「判断少し遅い」	読売新聞	2020. 12. 16
7	県が医師バンク 格差解消へ 再就職や移住を促進	朝日新聞	2021. 02. 01
8	医師不足解消へ マッチングサイト	NHK NEWS WEB	2021. 02. 07
9	医師と病院マッチング	読売新聞	2021. 02. 09

[illegible]

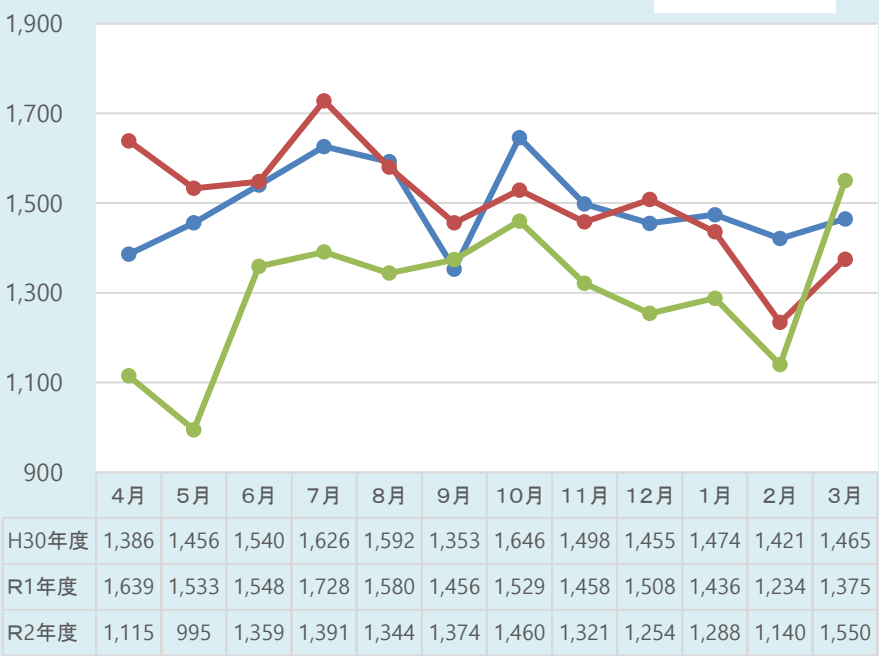
〒431-3192 静岡県浜松市東区半田山 1-20-

附属病院の診療実績

入院患者数（人）

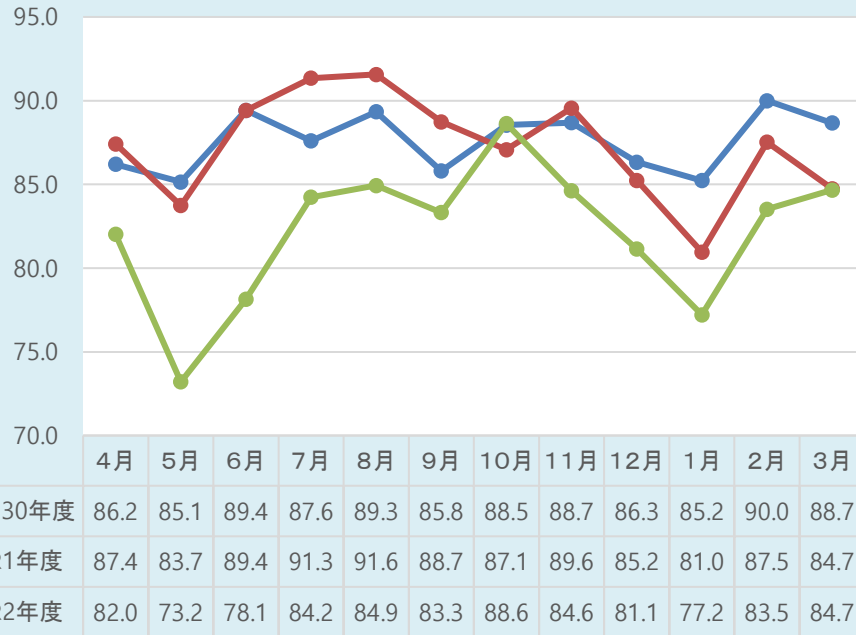


外来初診患者数（人）

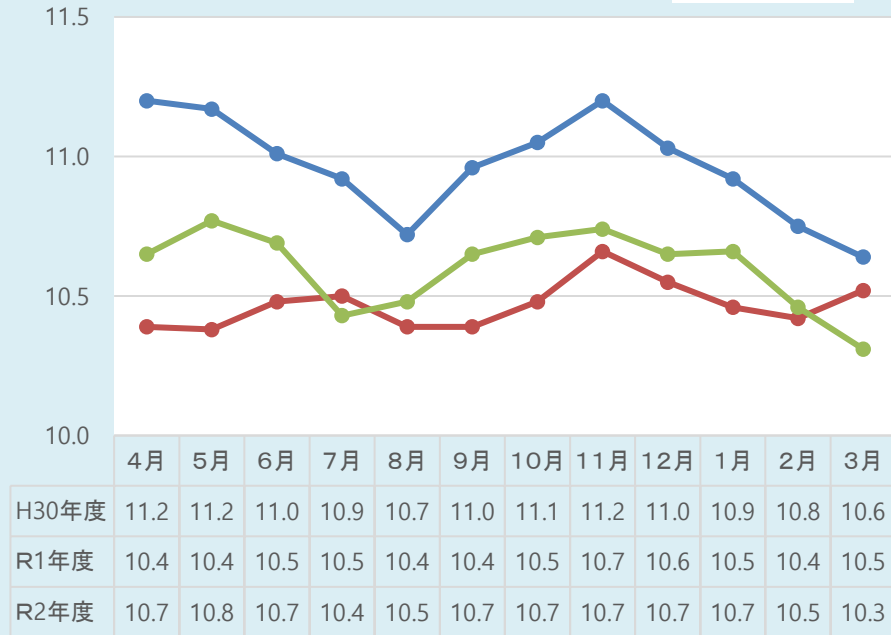


附属病院の診療実績

病床稼働率 (%)

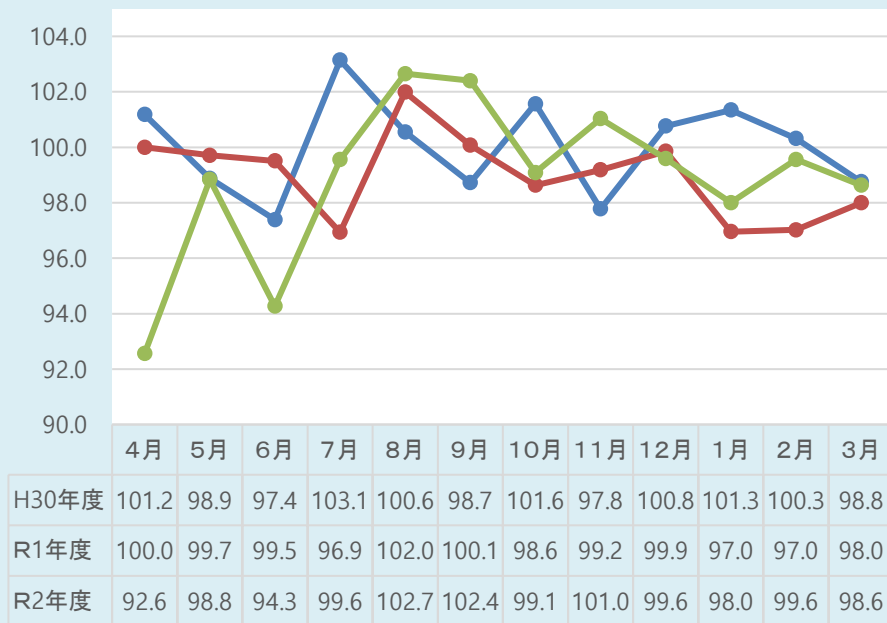


在院日数（日）

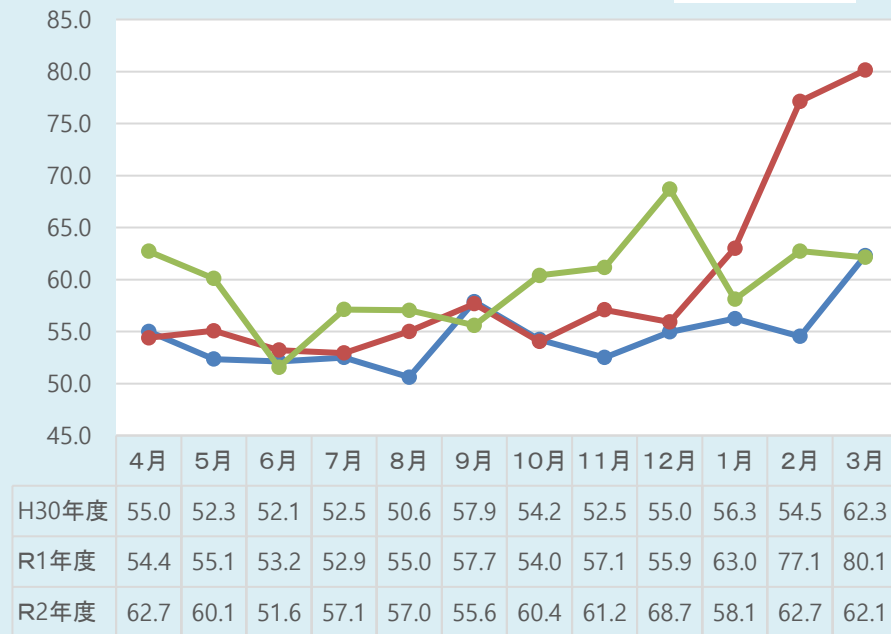


附属病院の診療実績

紹介率 (%)

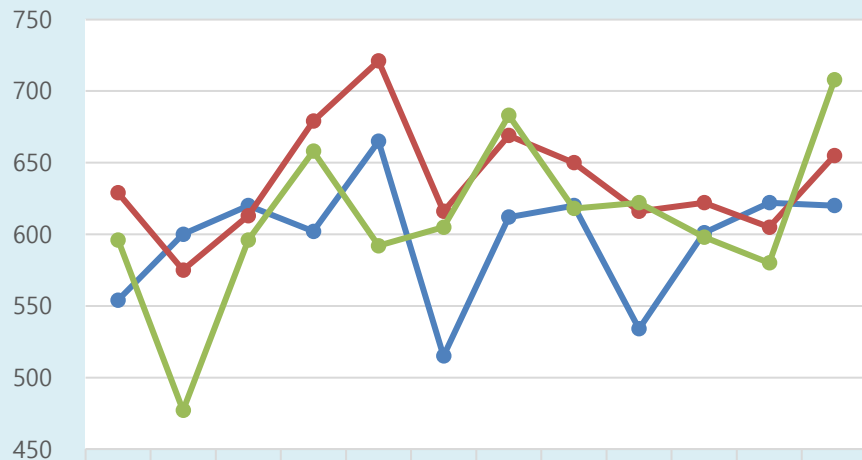


逆紹介率 (%)



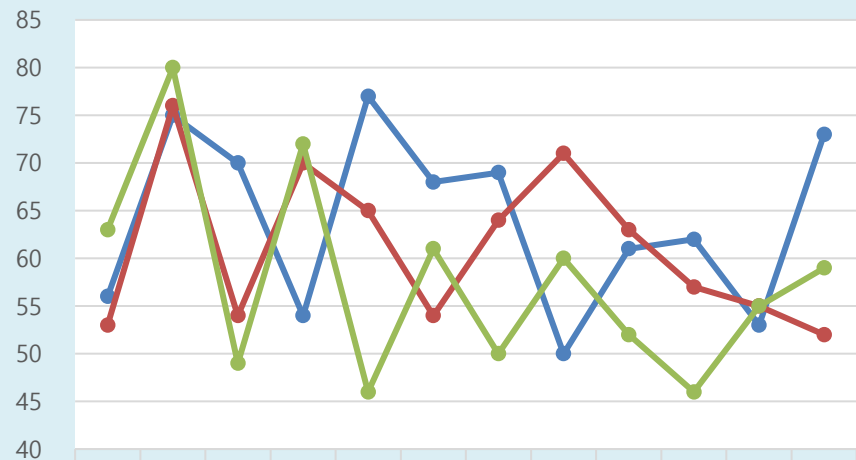
附属病院の診療実績

手術件数（件）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
H30年度	554	600	620	602	665	515	612	620	534	601	622	620
R1年度	629	575	613	679	721	616	669	650	616	622	605	655
R2年度	596	477	596	658	592	605	683	618	622	598	580	708

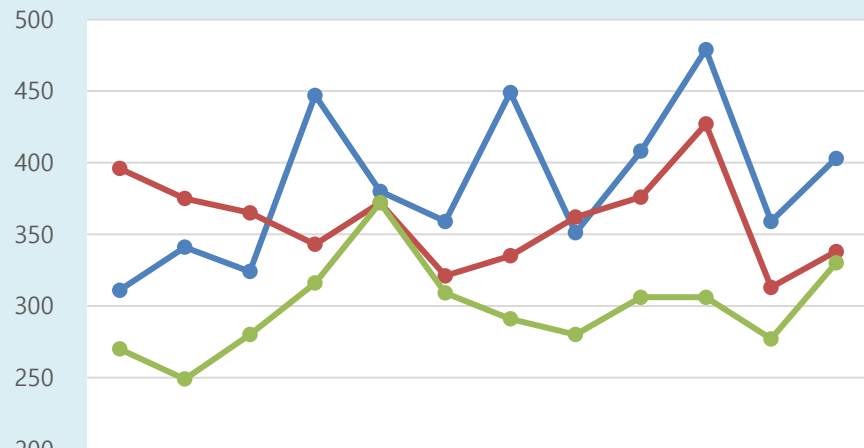
分娩件数（件）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
H30年度	56	75	70	54	77	68	69	50	61	62	53	73
R1年度	53	76	54	70	65	54	64	71	63	57	55	52
R2年度	63	80	49	72	46	61	50	60	52	46	55	59

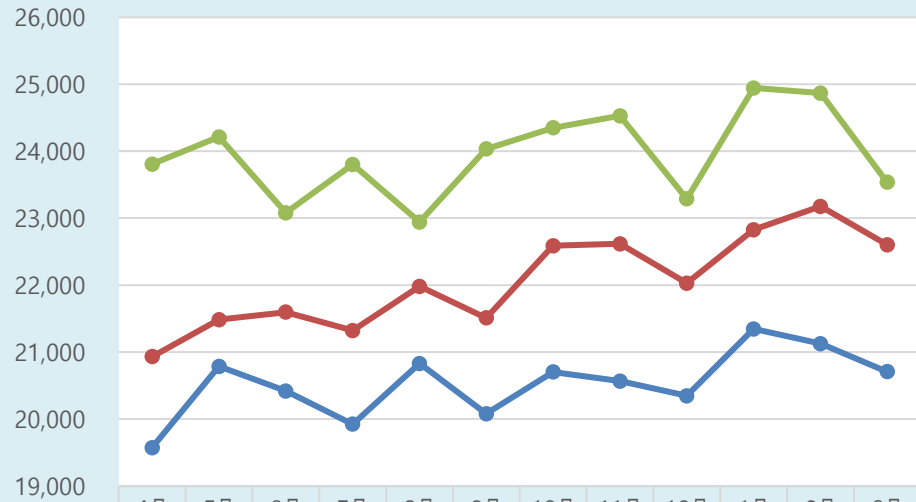
附属病院の診療実績

救急車搬入件数（件）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
H30年度	311	341	324	447	380	359	449	351	408	479	359	403
R1年度	396	375	365	343	372	321	335	362	376	427	313	338
R2年度	270	249	280	316	372	309	291	280	306	306	277	330

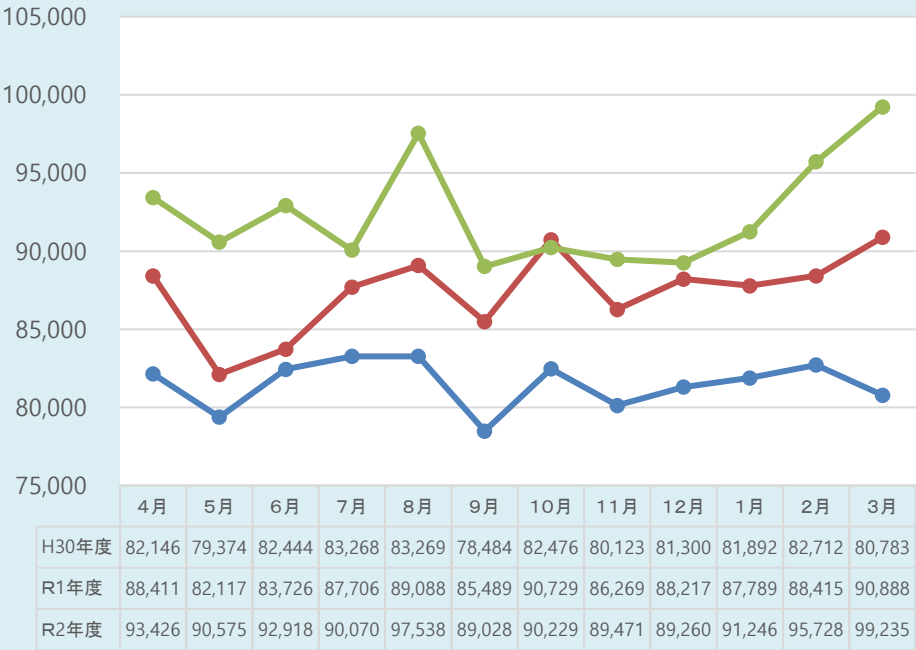
外来診療単価（円）



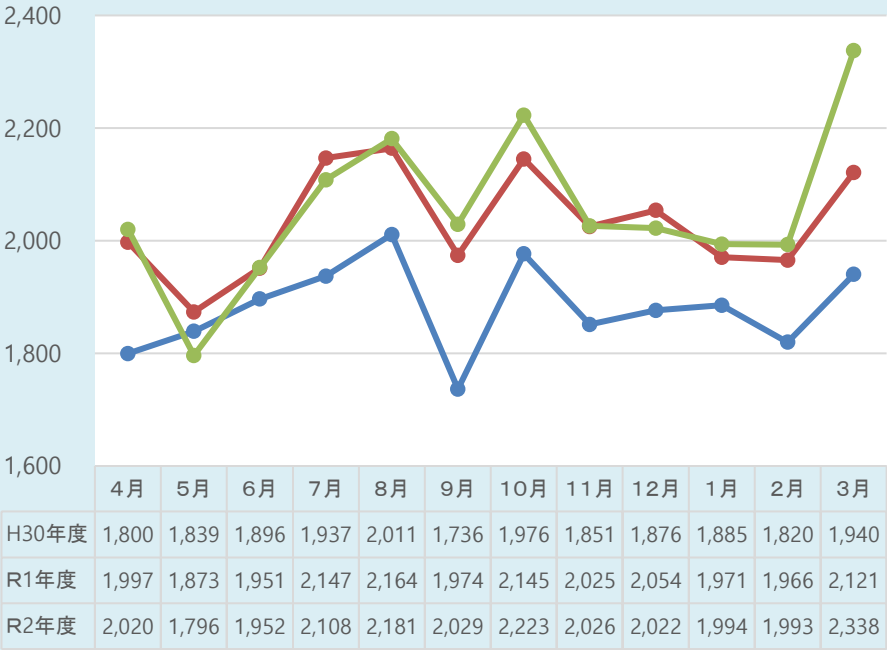
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
H30年度	19,573	20,787	20,419	19,925	20,829	20,080	20,703	20,567	20,348	21,345	21,126	20,708
R1年度	20,932	21,483	21,596	21,322	21,980	21,510	22,588	22,617	22,028	22,826	23,175	22,601
R2年度	23,807	24,212	23,081	23,801	22,942	24,034	24,348	24,528	23,288	24,944	24,867	23,537

附属病院の診療実績

入院診療単価（円）



入院＋外来合計稼働額(百万円)





08

**各部門ならびに業務別の
令和3年度目標**

各部門ならびに業務別の令和3年度目標



地域連携室

- ・ 地域連携室ICT化の推進
- ・ 地域連携Webセミナーを通じた地域医療貢献
近隣医療機関との連携強化

がん相談支援センター

- ・ 多職種スタッフ間で連携し、院内のがん相談支援体制を充実させる。
- ・ 新規相談員を迎え、相談支援業務の強化を行う

肝疾患連携相談室

- ・ 「医師、看護師等の医療従事者を対象とした研修会」
「患者、患者家族及び・地域住民を対象とした講演会等」の開催
- ・ 肝炎に関する普及啓発と感染予防の推進活動
- ・ 「肝臓病手帳」の普及・推進活動の継続
- ・ ウイルス検査陽性者への受診勧奨の推進



医療福祉相談部門

退院支援看護師

- ・ 機能強化棟に向けて2F入院カウンターの業務内容を整理する
- ・ 医療福祉支援センターの看護実践手順（退院支援部門）を見直し、修正や追加をする。
- ・ 看護部目標「Patient First」の実現に向けて、患者家族の意思を尊重した退院支援を行えるようスタッフの意識改革をする。

医療ソーシャルワーカー

- ・ 身寄りのない患者の支援体制を構築する
- ・ 各々のスキルアップができるよう、研修等に積極的に参加をする
- ・ 地域での安心した生活ができるよう医療資源を確認し、他医療機関とも情報共有する。



難病医療相談支援センター

- ・ 難病医療相談支援室の業務を明確化し整理する
- ・ 新しい生活様式に対応し研修会を継続、充実させる

【編集後記】

私自身、当院の医療福祉支援センターと関わって17年目になろうかと思います。正直、大学人生の最後に来て、今回のような感染症対応で苦勞するとは思っていませんでしたが、世の中は変化のあることが常ですし、その種の変化に対応できたもののみが生き残るというダーウィンの言葉も真実だと思います。

実は、われわれの組織もここ1-2年で大きく変わらなければなりません。私個人の定年にとまなう後継者の選定もそうですが、現在「マイナス1」となった看護師長の再配置やMSWの量的・質的充実、地域連携室の機能強化などは重要な課題だと思っています。実際、2021年度末には、病院の敷地内に地上5階・地下1階の医療機能強化棟（仮称）が開設され、その中には「入院支援センター（仮称）」のスペースが確保されます。これまでも入院前から患者情報の収集等は行ってきましたが、今後はその種の業務をより拡充するとともに、多職種による専門的な介入が的確に行えるようなチーム力が求められます。また、地域がん診療連携拠点病院として「高度型」の認定を受けたことへの説明責任や、今回、当院に新たに設置された「神経・難病センター」の周知に向けて、地域連携室からの情報発信や広報活動を強化していくことが望まれます。そういった意味では、2021年1月からウェブ配信している「浜松医科大学地域連携webセミナー」は良いきっかけとなりました。

いずれにせよ、医師や看護師だけでなく、事務職を含むさまざまな医療従事者が、当院の目的（ビジョン）を共有しながら突き進んでいく必要性を強く感じます。思えば、2003年に設置されたこの医療福祉支援センターは、開設当初から多職種協働を規範として日常業務を行ってきました。チーム医療やIPW(Inter-Professional Work)などが言葉だけの形骸的なものとならないように、そして私自身も次の世代に何かを伝え残していけるように、もうひと頑張りしてみますので皆さま方のますますのご協力をお願いします。



Thank you

浜松医科大学医学部附属病院
医療福祉支援センター